



SENKO

CSR報告書

環境・安全・社会への取り組み

Contents

ごあいさつ	02
-------	----

経営とCSR

センコーの事業概要	センコーの主力3事業／会社概要／主要サービス／国内拠点／海外拠点／センコーグループ事業データ	03
企業目標とCSR方針	新・「中期経営計画」／5つの中期経営方針	05
コーポレート・ガバナンスとコンプライアンスについて		07
コーポレート・ガバナンスの考え方と体制／コンプライアンス経営／適正な財務報告に向けた内部統制／危機管理体制の構築／個人情報の保護		

特集

特集1	センコーのエコロジスティクス戦略	09
特集2	センコーの安全品質向上活動	13
特集3	センコーの法令遵守体制	16

環境活動報告

環境方針	環境方針／環境推進体制／環境マネジメントシステムの推進	17
環境影響の全体像	CO ₂ 排出状況について	18
センコーの環境目標と成果	第Ⅲ期「環境マスタープラン」総括	19
地球温暖化防止への取り組み	CO ₂ 排出量削減への取り組み	21
物流効率化への取り組み	グリーン物流パートナーシップ取り組み事例	22
環境関連法令・規制への対応	改正省エネ法への対応	23
環境認証取得の状況	ISO14001認証取得への取り組み／グリーン経営認証の推進	24

安全活動報告

安全活動方針		25
安全目標	独自の「安全マネジメントシステム」の運用	26
安全管理への取り組み	安全マネジメントシステム／日常の安全活動の取り組み／安全関連法令の遵守対応	27
充実の安全教育	「強い現場」・「卓越した現場」をつくる人材教育体制	28
安全活動の評価・達成状況	外部団体・お客様からの高い評価／安全品質・技能向上の取り組み	29

社会性報告

快適職場環境づくり		31
センコー健やか活動／メンタルヘルスケア活動／ワンランクアップ活動／多様な働き方を応援するダイバーシティワーク		
地域での社会貢献活動		33
「交通安全教室」を全国で展開／教職員の職場体験の受け入れ／ 福田社長が関西大学・流通科学大学で講演／第4回「囲碁フェスティバル」を開催		

編集方針及び報告の範囲

センコーは、2005年度より3回「環境・安全報告書」を発行してきました。2008年度よりCSR推進委員会を新設し、従来より経営の最重要事項と位置づけていました「環境保全」「交通安全対策」を含めたCSR活動の取組領域を明確にしたことを契機に「CSR報告書」として発行しています。

編集方針は次の通りです。

- (1) センコーの特徴的なCSR活動を「特集」として紹介しています。
- (2) 記載対象範囲は、センコー株式会社ならびに一部グループ会社の活動も含まれます。
- (3) 記載対象期間は、2009年4月～2010年3月までの事業活動ですが、一部2010年4月以降のものも掲載しています。
- (4) 環境の報告は、環境省の「環境報告ガイドライン(2007年版)」を参考にしております。



このマークの掲載されている箇所は過去の取り組みの成果や進捗などを継続的に報告しています。

地球温暖化との関連が疑われる異常気象が多発し、各地で被害が生じつつある中、2009年12月に開催された気候変動枠組条約第15回締約国会議(COP15)において日本政府は、2020年までに温室効果ガス排出量を1990年比で25%削減するとの目標を掲げ自国の低炭素革命の達成と、発展途上国に対する環境技術や省エネ技術の協力を表明しました。

民間企業においても大量生産・大量廃棄のビジネスモデルから脱却し、将来の地球環境保全に不可欠な「省エネルギー」「省資源」「廃棄物3R (Reduce・Reuse・Recycle)」を前提とした事業運営を積極的に進めています。

当社グループのCSR活動は、「適法性と透明性を確保した倫理観の高い組織づくり」を行い、同時にすべての社員が「公共性の高い事業に携わっている」という認識を深め、本業を通じて社会貢献を迫及することを基本に取り組んでいます。

特に、物流企業として公共の道路や地域の皆様の生活に関わる場を事業活動で利用させていただいていることから、「環境保全」や「交通安全対策」を経営の最重要事項と位置づけ、徹底してまいりました。

今年度からスタートさせる新・「中期経営計画」においても「法令遵守」・「環境対応」・「安全重視」の3つをCSRの柱と位置づけて活動の充実を図ることにしています。

「環境対応」への取り組みでは、深刻化する地球環境問題に対して「センコーEcoイノベーション2012」活動をスタートさせ、省エネルギーの取り組みやCO₂削減に関する活動を行い、「環境先進企業」を目指します。デジタルタコグラフを活用したエコドライブの徹底による車種別最高燃費への挑戦、物流拠点での電力のデマンド機器設置による省電力活動などにより、単当たりエネルギー使用量の2009年度比で年次1%削減を目標に積極的に取り組みます。また、荷主企業の皆様へのグリーン物流パートナーシップによる環境負荷低減の提案も、2009年度比の倍増を目標に推進します。

「安全重視」では、全てに優先する安全の維持に向けて、交通事故、労災事故とも2009年度比30%削減を目標として、グループ一丸となった危険予知活動を展開する考えです。

今後も当社グループを取り巻く多くのステークホルダーの皆様へに評価をいただけるよう、CSR活動を充実させ、透明性の高い健全な企業活動に努めてまいります所存でございます。

ぜひ皆様から、今回発行しました「SENKO CSR報告書2010」について、忌憚のないご意見・評価をいただき、今後の活動に活かしてまいりたいと存じます。



センコー株式会社
代表取締役社長
CSR推進委員会委員長

福田 泰久

センコーの事業概要

流通ソリューション実現企業として、社会に貢献

お客様のSCM全般※の効率化を支援する“流通情報企業”として、センコーは、ICTを駆使したシステムで最適な流通ソリューションを提案。国内シェア・トップクラスの住宅分野、石油化学・樹脂分野、また成長著しい流通ロジスティクス分野の物流事業を中心に、お客様の様々な課題を解決し、社会の発展に寄与する事業活動を推進しています。

※SCM(サプライチェーン・マネジメント): ビジネスプロセスの全体最適を目指す戦略的な手法、情報システム

センコーの主力3事業

1
流通ロジスティクス
分野

流通SCMの事業領域を拡大し 様々な課題に対応

全国に広がる物流センターネットワークの活用、ICTを駆使した先進のシステム物流で、「量販・小売分野」の物流効率化を実現。また情報と商品の流れを一元管理し「アパレル分野」の物流を効率化。「医療・医薬・介護分野」においても、ベストなソリューションを提供しています。



2
住宅
分野

物流のシステム化で トータルコスト削減に貢献

住宅資材の調達から、施工進捗に合わせたジャスト・イン・タイム配送まで、センコーは住宅メーカー様のSCMに関する全てのニーズに対応。日本でもトップクラスの実績とノウハウを有しています。



3
石油化学・樹脂
分野

蓄積したノウハウを活かし、 物流効率化を支援

工場内物流から保管、エンドユーザー配送まで、創業以来培った豊富なノウハウで、多彩なシステム物流を展開しています。また物流アウトソーシング等、付加価値物流の提案を積極的に行っています。



会社概要 ※平成22年3月31日現在(勢カグループ合計)

- 商号 ● センコー株式会社 (Senko Co.,Ltd.)
- 資本金 ● 18,345,643,751円
- 創業 ● 大正5年9月
- 設立 ● 昭和21年7月
- 本社 ● 〒531-6115 大阪市北区大淀中一丁目1番30号
TEL.06-6440-5155(代表)
- 代表者 ● 代表取締役社長 福田 泰久
- 事業所 ● 321箇所
- グループ会社数 ● 58社
- 従業員数 ● 8,073名
- 貨物自動車 ● 3,174台
- 支配船舶 ● 19隻
- 倉庫 ● 2,015,977平方メートル
- URL ● <http://www.senko.co.jp>

主要サービス

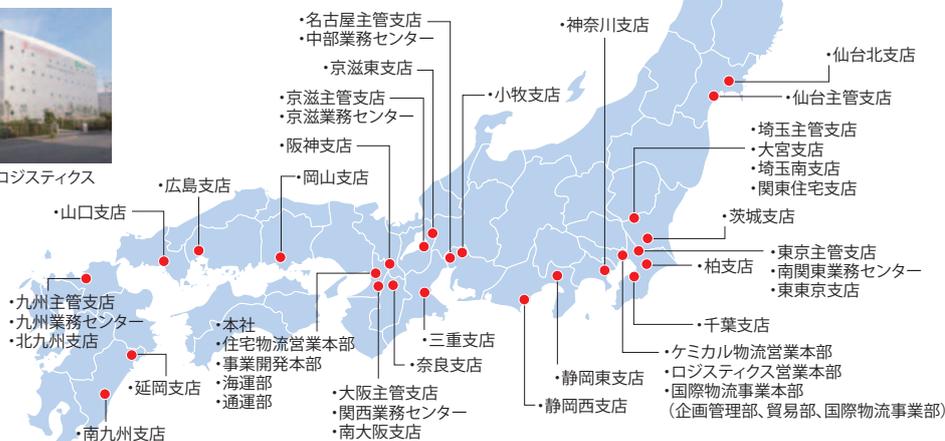


国内拠点

全国約202万㎡。販売戦略をもサポートする物流拠点。



船橋ファッションロジスティクスセンター



福島(本宮)流通センター



北関東ロジスティクスセンター

海外拠点

国内外一貫物流システムで、国際物流事業を推進。

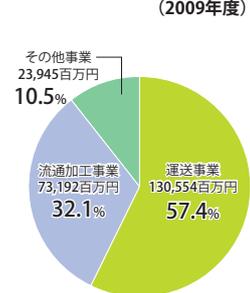


センコーグループ事業データ

[連結売上高/当期純利益の推移]



[連結セグメント別売上高] (2009年度)



[車両台数(連結)]



[倉庫総面積(連結)]



企業目標とCSR方針

グループ全体で、社会との共生を図る企業へ

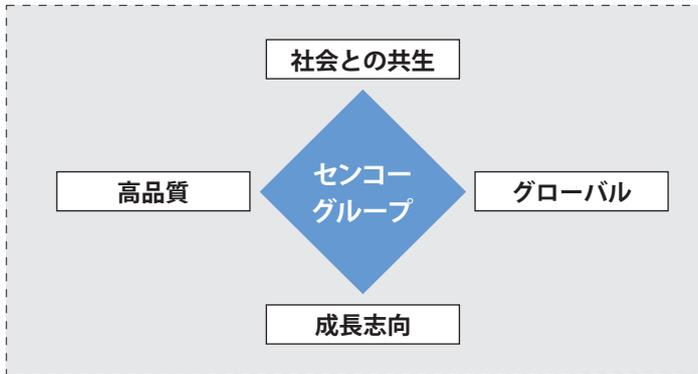
センコーの事業の中核を成す物流事業は、高い公共性を持っています。事業活動を通じて社会に貢献するという責任を果たすことは当然の使命と捉えています。2010年からスタートする新・「中期経営計画」においても、この「CSR(社会的責任)経営」を重点課題に掲げ、コンプライアンス、地球環境保全、安全確保を重視した取り組みを推進していきます。

新・「中期経営計画」がスタートしました

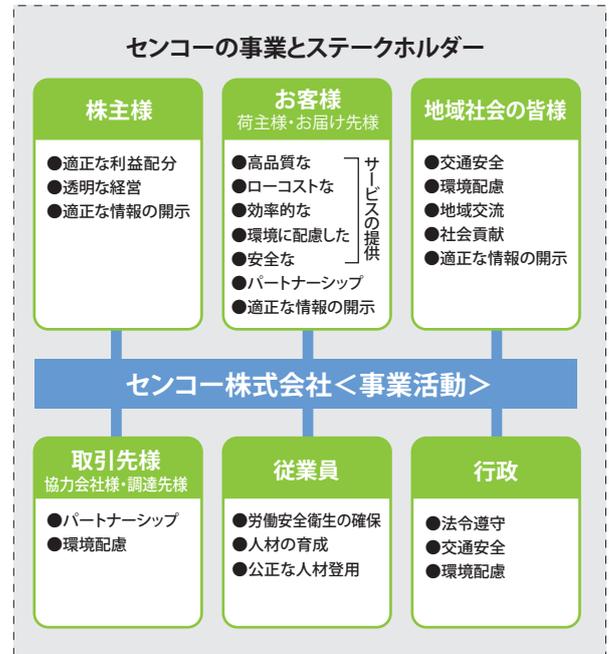
センコーグループの総力を結集して

センコーは、『社会との共生を図り、従業員の成長志向を育む中、高品質でコストパフォーマンスの高いサービスをグローバルに提供する』流通情報企業を目指しています。中期経営計画ではその実現に向けた5つの中期経営方針を制定。主力3事業の収益拡大に努めるとともに、社会から信頼される企業活動を行い、企業価値のさらなる向上を図ります。

[四拍子そろったセンコーグループへ]



[全てのステークホルダーに貢献できる事業を展開]



[コーポレートスローガン]

Moving Global (ムービンググローバル)

「グローバルな事業展開」
「国際力を高め、海外に出て行く」
企業姿勢を表します。

5つの中期経営方針を制定、企業価値向上に努めます

1 お客様の要望に応えた新たな市場の創出

今後の事業展開においては、

- ① 顧客の海外進出への対応を含めた、新たな海外マーケットへの進出
- ② M&A、3PL※ニーズへの積極的な対応
- ③ 物流センター事業の業容拡大
- ④ 流通事業ならびに流通関連事業の拡大
- ⑤ 販売メニューの拡大による

シェアアップ・業務領域の拡大に重点的に取り組めます。

※お客様の立場から効率的な物流システムの設計・運営・管理を一貫して行うもの



大連三興物流有限公司第1期倉庫

2 高品質・コストパフォーマンス性の追求

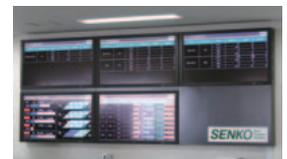
グループ全体で効率性の追求を図り、高品質でコストパフォーマンスの高いサービスを提供します。

[CS向上活動]

お客様のご期待以上の対応・行動で“驚き・感動”を届けられるように、従業員全員でサービスと満足度の向上に取り組んでいきます。

[情報化の推進]

ICT活用による車両の燃費向上等のグリーン化を推進。また「情報セキュリティポリシー」に基く情報漏洩対策の推進など、CSRIに対応した情報化施策を推進します。



作業員投入数の最適化を実現した作業進捗状況モニター

3 CSR[企業の社会的責任]活動の強化

全てのステークホルダーから信頼していただける企業風土を創造するために、センコーグループでは、「法令遵守」「環境対応」「安全重視」をCSR経営の柱と位置づけた活動を続けています。新・「中期経営計画」では、社会的ニーズに呼応する以下の取り組みに注力。CSR推進委員会を中心に、全従業員が高い意識を持って取り組むことで、事業を通じた社会貢献を果たしていきたいと考えています。

[センコーの重要施策]

『法令遵守』 体制の高度化

企業の継続的な事業運営、企業の存続に関わる適法性と透明性の確保を徹底。内部統制活動の運用体制の高度化を推進するとともに、リスクマネジメント体制を構築することで、企業の社会的責任を全うします。

▶ 特集企画 P16 をご覧ください

『環境対応』 施策の推進

物流業が環境に対して果たすべき役割は多大であると認識し、数値目標を掲げてCO₂削減と省エネルギー施策、グリーン物流を推進。環境先進企業を目指した「センコーEcoイノベーション2012」活動を推進します。

▶ 特集企画 P9～12 をご覧ください

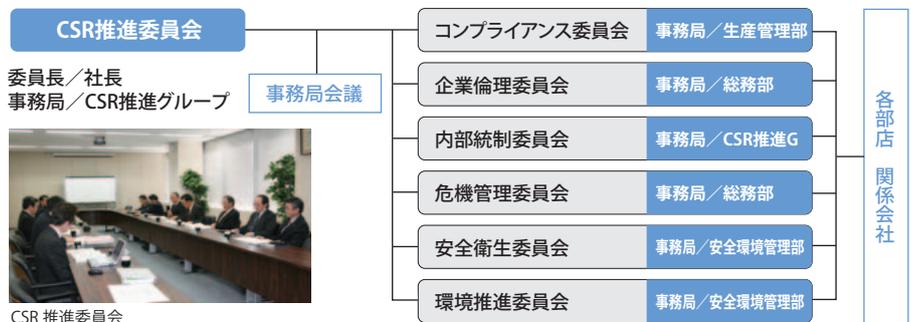
『安全重視』 体制の確立

「完全0災職場の確保」の実現に向けて、車両事故・労働災害発生率2009年度比30%改善の中期目標を設定。安全マネジメントシステムのPDCAサイクルを遂行し、管理・業務リスクの発見と低減に努めます。

▶ 特集企画 P13～15 をご覧ください

[「CSR経営」推進体制]

CSR推進委員会は「コンプライアンス」「企業倫理」「内部統制」「危機管理」「安全衛生」「環境推進」の各委員会で組織されています。社会的責任の領域を明確化し、活動の充実と深化を図っています。各委員会で立案された内容を審議して年度活動計画等を決定、また指導を行う役割を果たしているのがCSR推進委員会です。



4 意欲・健康・能力を向上する制度・環境整備

事業活動を支える従業員が快適に健康的に働ける制度を整備。また個人の就業スタイルを尊重し、モチベーションの向上につなげます。

[人事制度構築、人材育成の強化]

グループ全体の教育体制を充実。スキルを擁した人材を幅広く登用するため「地域管理職」「エキスパート職（スペシャリスト、テクニカルプロ）」の創設を進めます。

[健康活動の推進]

センコーグループの健康管理体制を整える中、健康障害予防のための職場改善を図り、健康リスクの低減を進めます。



手元が明るく空調が完備された流通加工スペース

5 財務健全性を重視した財務施策の推進

バランスシートの健全性を重視しながら、事業拡大に必要な投資は積極的に行ない企業の事業基盤をより強固なものにします。

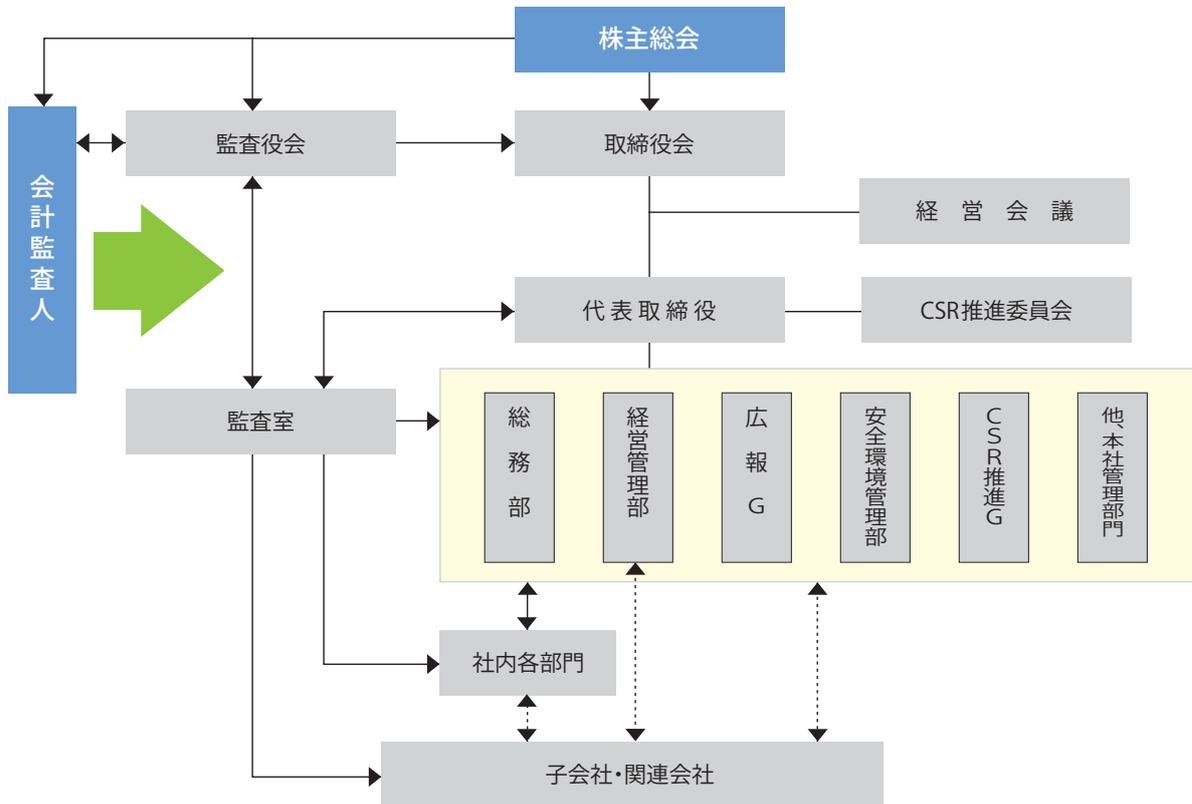


新・「中期経営計画」初年度最初にオープンした福井PDセンター

コーポレート・ガバナンスとコンプライアンスについて

コーポレート・ガバナンスの考え方と体制

センコーグループは、コーポレート・ガバナンスの充実が企業存立の基盤であり、経営の最重要課題の一つであるとの認識のもと、公共性の高い物流事業を行う企業として、コンプライアンス（法令遵守）に徹した企業行動に今後も努めていきます。

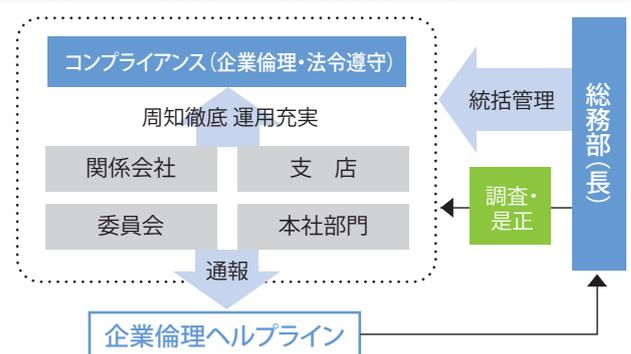


【業務執行と監査・監督】

- ①取締役会は、毎月1回以上開催しており、法令で定められた事項の他、経営に関する重要事項を決定するとともに、業務執行を監督する機関として位置づけております。また、執行役員制度を導入し、取締役会の機能強化に向けた「経営の意思決定・監督」と「業務執行」の各機能の分離、双方の機能強化と責任の明確化を図るとともに、執行役員も出席する経営会議を設置し、業務執行状況の検証を行い、より透明度の高い経営の実現を図っております。
- ②監査役は、取締役会に出席し、取締役の業務執行を客観的立場から監視するとともに、内部監査部門である監査室及び会計監査法人と連携し、子会社も含めたコンプライアンスの徹底を図るとともに、厳正な監査を実施しております。

コンプライアンス経営

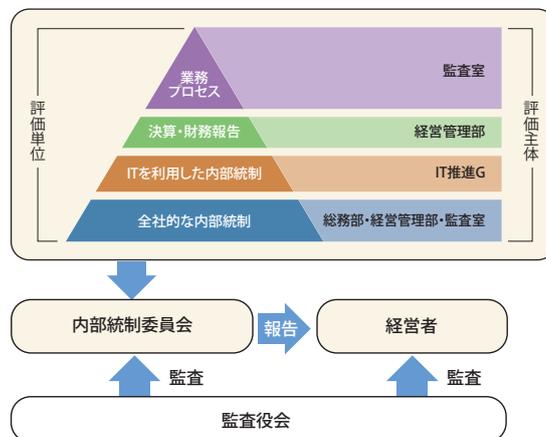
法令を遵守し、倫理にかなった事業活動を行うことは、企業が社会的責任を果たし、全てのステークホルダーから信頼を得る上で、最も基本的なことです。センコーグループでは、誠実で公正な事業経営を旨とし、コンプライアンスの強化を推進。既に制定・設置している「センコー企業行動基準」、「センコーグループ企業倫理委員会」、「企業倫理ヘルプライン」について、総務部の統括管理のもとで、各担当部門において周知徹底と運用の充実を図り、重要事項については取締役会が指針や内容を決定するなど、コンプライアンス体制をより強固なものとし、社会的信用の向上を図っています。



適正な財務報告に向けた内部統制

経営の透明性と法令遵守を徹底させるために、CSR推進委員会の専門委員会の位置づけで「内部統制委員会」を設置し、財務報告に係る内部統制規則を制定するなど、業務の適正さを確保する体制を強化しています。「内部統制委員会」では、適正な財務報告に向けた各業務フローの枠組み、処理手続、判断基準となるリスクコントロールを定めるとともに、全事業所への指導を実施。2009年3月には、グループ各社で規定やマニュアルの文書化、業務の可視化、標準化等の改善活動も終了し、適正な「内部統制報告書」を作成できる条件整備を整えました。

金融商品取引法に基づく内部統制報告制度の対応については、重大な不備や欠陥はなく、「内部統制報告書」を2009年6月に提出完了しました。各事業所に対して内部統制制度の重要性を認識させ、全社一丸となって取り組みを継続、さらなる信頼性の向上に努めてまいります。

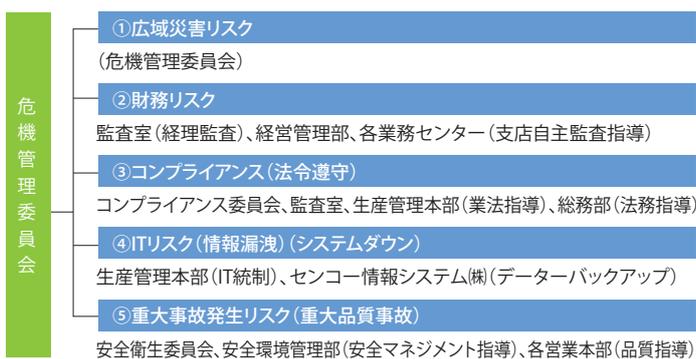


危機管理体制の構築

企業が遭遇する種々に渡るリスクに対しては、万一の緊急事態が発生した場合は人命優先、物的損害（経営損失）の軽減、業務の早期再開、社会的信用の維持、地域社会への支援と貢献の観点からの対応策を実施する「緊急時対応マニュアル」を策定しています。またリスクを体系化し、対応部門を明確にすることを目的とした「リスク管理規定」を策定し、即座に対応できる体制を構築しています。

2009年に発生した新型インフルエンザは弱毒性ではありませんでしたが、今後強毒性のインフルエンザが発生する可能性が残るため、2010年度は強毒性を考慮したBCP（事業継続計画）の策定に着手します。

リスク管理の体系



Topics 2009年度の新型インフルエンザ対応について

2009年4月の新型インフルエンザ発生に際しては、5月に神戸で初めての感染者が確認されたことを受け、社長を本部長とする「新型インフルエンザ本社対策本部」を立ち上げました。また感染予防、感染拡大防止を基本とした対応マニュアルを策定し、その中で感染者他の自宅待機指示等のルールを明確化して対応を行いました。

①本人感染による休暇/有給 ②家族感染者（濃厚接触者）の自宅待機/3日間の特別休暇 ③基礎疾患患者、妊婦の自宅待機/特別休暇（無期限）
従業員に対しては「安否確認システム」で健康状態の確認を行い、感染確認地域への出張自粛、会議開催の自粛を促しました。また感染者（家族含む）の数が増えるにつれ紙ベースでの把握が難しくなったため、「新型インフルエンザ感染者実態調査DB」を作成し、効率良く把握する仕組みを構築。訪問時のマスク着用や消毒・手洗いの指定などお客様からの要望事項についても情報の集約を行い、適切なBCPの策定につなげています。

個人情報の保護

個人情報の保護は、集荷・発送の依頼などでお客様の個人情報をお預かりするセンコーの責務であると考えています。そのために、情報セキュリティポリシーの制定をはじめとした情報保護体制を徹底しています。

その一環として、流通情報システムの構築と運用を担当するセンコー情報システム(株)が「プライバシーマーク※1」の付与を受け、2009年10月に組織の情報セキュリティのすべてをカバーするISO27001認証※2を取得しています。さらに経理・人事業務のアウトソーシングを引き受けるセンコービジネスサポート(株)が2010年1月に「プライバシーマーク」の付与を受け、また、経済産業大臣認定個人情報保護団体として個人情報苦情相談窓口を開設、第三者機関として迅速・円滑な苦情の解決にあたっています。

※1 プライバシーマークは、個人情報の取り扱いに特化したマネジメントシステムで、日本国内のみで使われています。

※2 ISO27001は、個人情報だけでなく組織が保有するすべての情報リスクを管理するマネジメントシステムの国際規格です。

SENKO CSR-1

センコーの エコロジスティクス戦略

物流企業が環境に与える影響は大きく、事業活動で発生する温室効果ガス削減は社会的責務であるとセンコーは捉えています。新・「中期経営計画」においても温暖化防止施策を重点課題と定め、エコ物流の推進はもとより事業所・物流施設にわたる全ての事業活動で環境負荷低減に努めています。

物流 システム



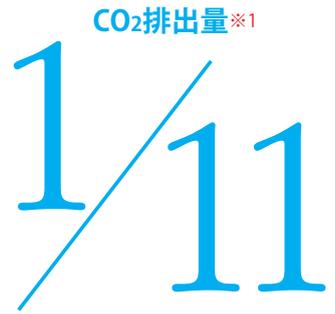
低公害型大型船・扇泰丸



液化アンモニア船・扇凧丸

海陸一貫『モーダルシフト』による、 物流効率化で環境負荷を低減します。

エコロジスティクスの推進役を担うのがモーダルシフトです。トラック輸送中心であった幹線輸送を、エネルギー効率が高くCO₂排出量を大幅に低減できる、鉄道や海運を組み合わせた複合一貫輸送にいち早くシフト。それぞれの特性を生かした輸送システムで、お客様に最適な輸送を提案しています。

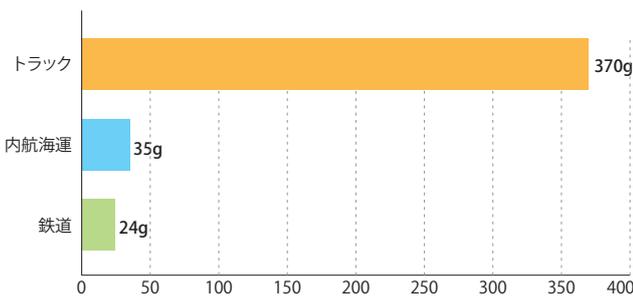


※1 トラック輸送と比較したCO₂排出量比

地球環境にもやさしい輸送手段が「海上輸送」

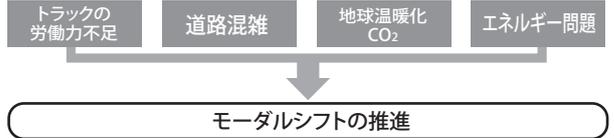
センコーは、海上輸送を組み合わせたモーダルシフトを積極的に推進。大量の貨物を長距離輸送できるためCO₂排出量を抑えられ、またトレーラーのシャーシのみを搭載するRORO船輸送、定期航路を有効に活用した海上ラウンド輸送など、高効率な輸送形態を次々と提案しています。貨物船やケミカル船など現在19隻の自社船を保有。船舶も大型化を図り、NOx・SOx排出量が少ない低公害型エンジンを採用しています。

■貨物輸送機関別CO₂排出量 (g・CO₂/トンキロ)

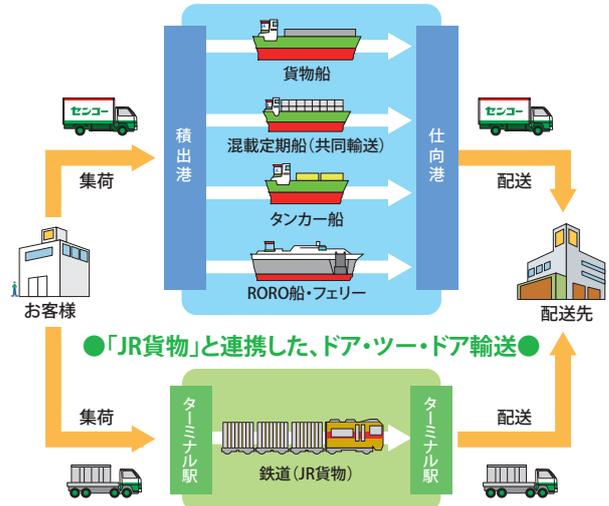


出典：環境白書・運輸政策審議会答申より

■モーダルシフトイメージ



●多彩な「海上輸送」形態で各地湾岸をネットワーク●

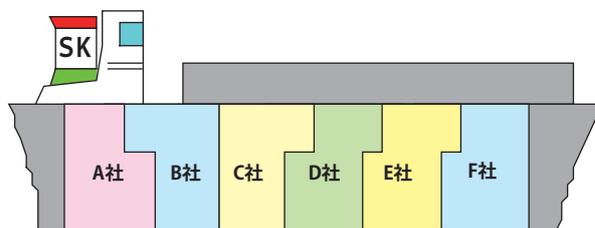


●「JR貨物」と連携した、ドア・ツー・ドア輸送●

「共同輸送」で輸送の最適化を実現します

小ロット輸送や緊急出荷等の場合も、複数のお客様の貨物を積み合わせる共同輸送で多様なニーズにお応えしています。例えば貨物船共同輸送では、約500t一隻分の物量を積み合わせて確保し、海上輸送のローコスト化を実現。センコーでは共同輸送を十数年前より継続。10~15tのトラック輸送の物量でも可能なこの海陸一貫輸送は、多数のお客様にご利用いただいています。

■共同輸送の積付例



■バルクコンテナ輸送



「鉄道利用輸送」実績は業界トップクラスです

「JR貨物」と連携したモーダルシフトは、高速・大量輸送に優れ、CO₂排出量はトラック輸送の約1/16。また定時性があり、鉄道コンテナやタンクコンテナなどの利用によってトラック輸送との連携がとりやすいのも鉄道利用輸送のメリットです。センコーではコンテナサイズや機能などお客様のあらゆるニーズに対応する体制を整え、高効率物流をサポート、ご信頼をいただいています。



「大型」バルク専用コンテナを独自開発

さらに高効率輸送を実現するための「大型化」を推進。その一つが、充填量16~20tのバルク専用コンテナの開発です。従来のフレキシブルコンテナ(10~12t)に比べ充填量が格段に多く、納入頻度や配送回数を大幅削減できます。その他にも通常のトラクタヘッドでコンテナ内の樹脂を直接サイロへ投入できる特殊シャーシを開発、輸送品質や作業効率の向上を図っています。



CSR VOICE

コストコホールセールジャパン株式会社様 事例

お客様と二人三脚でモーダルシフトを推進！
エコシップマーク(環境優良企業)に認定されました。



エコシップマークは、国土交通省海事局がモーダルシフト促進のため、顕著な取り組みを行う企業を認定するものです。センコーでは、モーダルシフトを推進するコストコホールセールジャパン(株)様とともに、2009年11月に認定を受けました。コストコホールセールジャパン(株)様は日本全国に会員制倉庫型店を展開されている大手流通会社で、関東地区の倉庫から九州等への長距離輸送は、全量フェリーをご利用いただいています。トラック輸送だけの場合に比べCO₂排出量は66%削減。地球温暖化防止に寄与する取り組みが今回の認定につながっています。

物流施設

エコ物流拠点を目指して。 環境配慮設備を導入しています。

事業活動におけるCO₂排出量内訳で3割強を占めるのが物流拠点・事業所であるため、今後これらの削減取り組みを強化していく考えです。
物流拠点では太陽光発電など環境負荷のない設備を積極的に採用。
新物流拠点「船橋ファッションロジスティクスセンター」には環境配慮設備を多数導入しています。



船橋ファッションロジスティクスセンター

快適な職場環境を作る
「空気循環用ファン」

「ガスヒートポンプ」で冷暖房

省エネ性の高い「高効率照明」

環境にやさしい物流拠点「船橋FLC」

百貨店通販物流の拠点となる「船橋ファッションロジスティクスセンター」が、2009年7月より本格稼働しました。倉庫内はガスヒートポンプによる空調を導入し、室内の空気を快適に循環させるファンを設置してエネルギー効率を高めています。

この物流拠点では、環境負荷を低減する数々の対策を施すことで、建物の建設(建築資機材の製造、運搬含む)、運用の各段階から廃棄に至るまで、ライフサイクルを通して排出されるCO₂総量を20.8%削減。また建設副産物の減量化・再資源化を推進しリサイクル率82%を実現しています。

- コンクリート型枠や建材等も再生資源やリサイクルが可能なものを採用。
- 冷暖房効率の高い屋根や外壁を採用し、熱損失を低減。
- 高効率照明器具を導入し、エネルギー効率化を実現。
- 輸送設備は荷物用エレベータ8基、垂直搬送機2基を設置し、輸送効率を向上。
- 船橋市と倉庫敷地内の緑化協定を締結。

CO₂排出量※2
20.8%
削減

※2 建設、運用・解体に至る排出量総量

クリーンな太陽光発電を有効活用します

「水島物流センター」では、2008年12月に事業拡大に向け倉庫棟3棟を増設し、内1棟の屋根に100kWの高効率「太陽光発電」設備を設置しました。施設内照明や動力機器、制御機器、空調など全電力消費量の約半分以上をこのクリーンエネルギーで賄い、休祭日の余剰電力を売電することで電気代も大幅に削減しています。

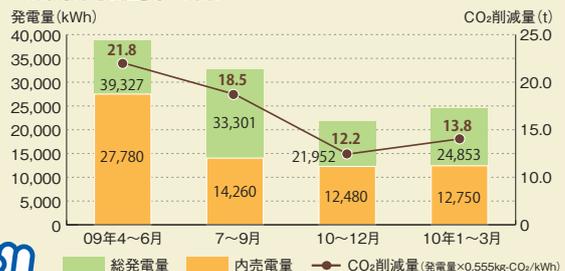


太陽光発電装置が 2009度も効果を発揮しています。

2009年4月から1年間の発電電力総量は約119,432kWh、売電量は約67,270kWhと導入時の想定目標を達成。太陽光発電設備導入によりCO₂排出量は66.286t削減されています。

CO₂排出量※3
約**66.3**
t-CO₂

「太陽光発電装置」導入効果



※3 CO₂削減効果は『地球温暖化対策の推進に関する法律施行令』(2008年度時点)に基づき、「0.555kg-CO₂/kWh×発電量(kWh)」で算出。



事業所

電力使用量5%ダウンを目標に、省エネの“見える化”を推進します。

センコーでは、具体的な省エネ数値目標を事業所毎に設定でき、取り組みの成果も目に見えてわかる「電力デマンドシステム」を事業所30箇所に導入しました。センコー全体(事業所)の電力使用量の50~60%がこれらの事業所で使われているため、大きな節電効果が期待されています。

電力消費量

5.0% 削減

「電力デマンド」を導入し省エネ体制を徹底

電力デマンドは30分間毎の消費電力量をリアルタイムで表示、現在の消費電力量をもとに30分間の消費電力量を予測する機能を備えています。最初に設定した「目標デマンド値」を超える場合は、警告音で知らせるのがこのシステムの特長です。「警告音を鳴らせないためにはどうするか」をその都度検討。事業所毎に考えた改善策を実行すれば、どれだけ節電効果が出たかを明確に数値で確認できます。電力消費量5%削減の目標を掲げ、社員それぞれの環境意識を高めることで、温暖化防止対策を推し進めたいと考えています。

＜具体的改善取り組み＞

- ◎現場大型空調・事務所空調の温度設定見直し
- ◎電灯スイッチ設備の細分化によるこまめな消灯
- ◎過剰照度の適性化(間引き・簡易反射板利用等)
- ◎生産性向上活動による労働時間短縮
- ◎電動リフトの予約充電による夜間電力の利用
- ◎LEDの設置、センサー付き電灯の導入
- ◎断熱塗料の増設などの改善項目を設定

【先進の省エネ設備でトータル監視】 ■電力デマンド監視画面



- 目標電力使用量(デマンド値)を設定するとラインが表示
- 現在の電力使用量を表示
- 30分後の予測電力使用量を表示
- 目標値に近づくと警告音で告知
どのエリアで節電が必要かも確認できる

小牧営業所では、電力量**16.5%**削減を達成!

サイト名		小牧営業所			
期間		H19.9~ H20.8	H20.9~ H21.8	差	効果率
項目	単位				
契約デマンド数	kW	370	341	-29	-7.8%
電気使用量	kWh	1,187,346	991,856	-195,490	-16.5%
電気料金	基本料金	千円 6,678	6,163	-515	-7.7%
	使用料金	千円 12,682	11,899	-783	-6.2%
	合計	千円 19,360	18,062	-1,298	-6.7%

-108千円/月間平均

事業所周辺の緑化を進めています

センコーグループでは、身近なところから取り組める地球温暖化防止活動として、事業所の緑化を進めています。2009年度は、静岡東支店の本部事務所棟、三重支店桑名PDセンター事務所棟、及びクレフィール湖東西館の屋上緑化を実施しました。今後も、CO₂排出企業として、環境負荷低減のため年次計画を作成して継続的に取り組んでいきます。



静岡東支店屋上緑化

省エネ型照明への転換を図っています

省エネ設備の中でも高い効果が見込めるのが照明設備です。センコーでは事業所や倉庫で、光源を従来型からLED蛍光灯などに取替える、照度計でチェックし適正な照度にする、反射板を採用するなどの取り組みを行っています。例えば蛍光灯1本をLEDに取替えた場合、69.4%(4.96kg)※のCO₂の削減が可能となります。※1日12時間22日間使用時



SENKO CSR-2

センコーの安全品質向上活動

「クレフィール湖東」は、国内屈指の規模を誇る公開型交通安全研修施設です。センコーでは、“安全重視・環境配慮企業”として培ってきた安全運転やエコドライブに関するノウハウや研修プログラムを多くの企業や団体、一般ドライバーに提供。社会の交通安全向上や環境保全に貢献しています。

CLOSE UP! 密着レポート 大型ドライバーフォローアップ運転研修

交通安全研修所
チーフインストラクター
石井 成人

お客様に合わせた多彩な研修プログラムを提供。体験を重視した実践的な研修を実施しています。

経験豊富なインストラクターが、実技中心の研修を実施します。標準の安全運転研修プログラムに加え、お客様のニーズや業態、車両やドライバーに合わせて、独自のプログラムも作成しています。

1日目 14:30



エコドライブ



普段の走行と講習後の走行の使用燃料を比較。エコドライブが環境、安全、経済に効果的であることを理解し、省燃費運転を体得します。

2日目 08:30



CRT運転適性診断と解説



警察庁方式CRT検査器を使用して緊急反応やハンドル操作などの「運転行動」を診断。運転時の自分の弱点を知り、克服につなげます。

1日目 18:00



顧客接遇



モラルとマナーを守った運転に加え、あいさつやていねいな言葉使い、誠意ある態度が顧客の信頼向上につながることを学びます。

2日目 14:30



教官のMESSAGE

交通安全研修所 インストラクター
本村

研修を日々の行動につなげていただくことが大切です。

受講生の皆様は運転技能に長けたプロのドライバーだからこそ、基本の重要性を再確認していただきたいと思っています。研修では、ドライバーとしての経験をもとに、その行動の意味も含めて説明し、納得して日々の行動につなげていただけるよう心がけています。

受講者のMESSAGE

日本エア・リキード株式会社様 13名がご参加

濡れた路面で急ブレーキをかけるなど、日常では体験できない危険な状況を研修であって体験し、とっさにはいつものように判断できないことを実感しました。エコドライブの効果も数値で確認でき、改めて今後の業務に生かしていこうと思いました。



2日目 09:30



後退時の注意ポイント S字バック



狭い構内をバックする業務を想定し、目視や歯止めを用いて正確かつ安全にS字バックし、所定位置で停止する運転操作を確認します。



トレーラの特性・ 連結手順



横転する危険性の高いトレーラの特性を理解するとともに、連結する手順、点検箇所を再確認します。

2日目 10:30



日常点検実技



事故や路上故障を防止するための日常点検、指差呼称を手順通り行い、あらかじめ設定された不備を発見できるかを確認、評価します。

2日目 13:00



ブレーキング

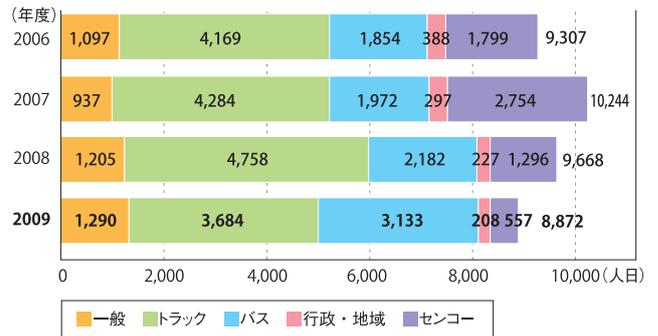
濡れた路面で急ブレーキをかけ、停止までの制動距離を確認。車両と自分の反応の限界を知り、どの程度の車間距離が必要かを体得します。

開設以来、延べ8万人を超える研修生を受け入れ、 企業・団体の安全技術向上を支援しています。

約66000㎡の交通教育ゾーンには、基礎訓練エリア、回遊訓練エリア、高速周回コース等が設けられ、公道で起こり得る危険を踏まえた様々な走行シーンを体験できます。また、お客様のニーズや実情に合わせたプログラムの作成も行っています。

1996年の開設以来これまでに延べ8万人を超える研修生を外部から受け入れ、研修後は事故件数が減少するなどの嬉しい報告もいただいています。

■クレフィール交通研修 企業・団体別利用者実績



主な安全運転研修等プログラム

- 一般ドライバー(乗用車)安全運転研修
- 貨物自動車ドライバー安全運転研修
- 消防・救急緊急自動車ドライバー安全運転研修
- 旅客自動車ドライバー安全運転研修
- 安全管理指導者研修
- エコドライブ(省燃費運転)研修



車両点検の練習風景



後方確認の練習風景

SENKO CSR-2 センコーの安全品質向上活動

お客様の声



日本エア・リキード株式会社
 ジャパン・エア・ガズ社
 工業事業本部バルクガス事業部
 トランスポート部トランスポートグループ
 ユデク マルチン様



当社は、産業ガスおよび医療ガスを製造・販売しています。ガスの中には、取り扱いを誤まると危険なものもあります。万が一、輸送中やお客様先での充填中に事故が起きれば、たくさんの人を巻き込んだ大惨事になりかねません。そのためガスを運搬するドライバーには、高い技能とモラルを持ち、どんな時もそれを安定的に保ち続けることが求められます。

クレフィール湖東では、当社独自の研修項目を取り入れた「大型ドライバーフォローアップ運転研修」と「側乗指導者研修」を実施。毎年平均約130名のドライバーが受講しています。全ドライバーには、3年に1度「大型ドライバーフォローアップ運転研修」を受けることを義務づけています。規定を満たさなければ、ガスの運搬業務には携われないという厳しい社内基準を徹底していることもあり、研修には全員が緊張感を持って臨んでいます。

メリットに感じているのは、「S字バック」や「トレーラの連結手順」といったプログラムを取り入れるなど、当社の業務特性や要望に柔軟に応じてくださるところです。また交通にかかわるプロとして車両や交通に関する様々な相談に乗ってくださることが、日々の業務にも役立っています。ドライバー経験の豊富なインストラクターの方々の指導には説得力があり、受講するドライバーも信頼感を抱くことができるようです。お客様からも、顧客接遇や指差呼称の重要性を学んだドライバーの接遇、業務態度を高く評価いただいています。

これからも研修はもとより、様々な面でご支援、ご指導をお願いします。

「業態別技能訓練」で、“危険物・毒劇物輸送のプロ”を養成します。

毒劇物輸送訓練

センコーでは、特定業務分野での物流技術の飛躍的向上、また他事業者との差別化を図るため、様々な業態別技能訓練を「クレフィール湖東」で実施しています。

危険物・毒劇物輸送に関わるタンクローリーのドライバーの技術向上を目指し、2010年2月9日から11日にかけて、「第3回ローリー輸送テクニカルプロドライバー認定訓練」を行い、その中でテクニカルプロドライバー（TP）の認定を行いました。この訓練は、危険物などの輸送に不可欠な法令や製品特性の知識、荷卸し技術、緊急時の対応などについて訓練とテストを行い、合格者をテクニカルプロドライバーとして認定するもので、新たに13名を認定しました。

人事部・人材開発グループとケミカル物流営業本部では、この13人が“危険物・毒劇物輸送のプロ”として、センコーグループの安全・品質向上に寄与してくれることを期待しています。



テクニカルプロドライバー認定を受けて

延岡支店 車輛営業所 第2車輛係
 大山 清和 社員



テクニカルプロドライバー認定訓練を受けて良かったことは、危険予知訓練により、個人個人の危険性の見方、考え方の違いがその場で感じられて勉強になりました。また、指差呼称の重要性をあらためて感じ、今後の作業で確実な指差呼称をしていきます。テクニカルプロドライバーとして認定されましたので、今後は今回の認定訓練で学んだことを実践しテクニカルプロドライバーとしての自覚を持って運転、作業に努めてまいります。

TOPICS

「SDカード」取得率は2年連続No.1!

センコーは、業務上のみならず、業務外までの交通法令違反行為の抑止効果を図るため、トラックドライバーやマイカー通勤者などを対象として、運転記録証明・SDカードの取得を推奨しています。

各事業所では、従業員全員の取得を毎年要請しています（コストは会社負担）。2009年度の取得率は、従業員3,690名中、2,682名が取得。これは物流業界において2年連続No.1の取得率となります。

重大な交通法令違反については懲罰適用基準に従って処分され、軽微な違反があったことも明白となることから、交通運輸産業に関わる者として安全運転への意識付けや遵法運転を定着させることができます。

SENKO CSR-3 センコーの 法令遵守体制

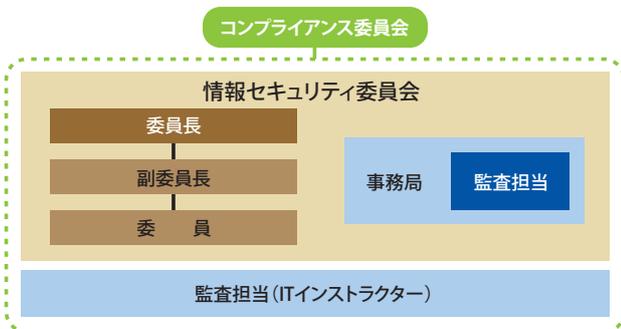
「流通情報企業」として、ICTを駆使したロジスティクスシステムをお客様にご提供しているのがセンコーです。お客様の物流情報を確実に守る。その責任は重大であると考え、万全の情報セキュリティ管理体制を構築しています。

情報セキュリティポリシーを策定。 「情報資産」を守る体制を強化しました。

お客様に安心し信頼していただくには、紛失・盗難・漏洩・不正使用等から情報を保護する適切なセキュリティマネジメントを行わなければなりません。センコーでは、様々な情報資産を社外の脅威から守り安全に運用するための規約「情報セキュリティポリシー」を策定。2009年6月からこの情報セキュリティポリシーを遵守した運用を開始し、高度な情報セキュリティ管理の維持に努めています。

「情報セキュリティ委員会」を設置

「情報セキュリティ委員会」を新たに設けて、管理運用に関わる各責任者を統括。情報セキュリティ委員会を「コンプライアンス委員会」の管理下に置くことで、全社の情報セキュリティの状況を正確に把握し、必要な対策を迅速に行える体制を整えています。



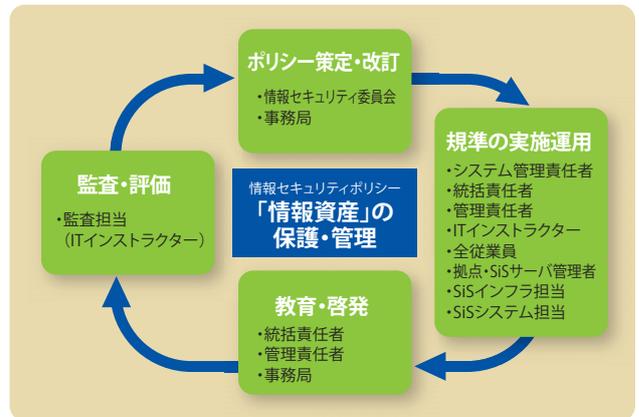
セキュリティ管理を徹底し、信頼性を向上

開始時には全部支店を対象とした説明会 (TV会議) を実施。運用に当たっては情報システム部門には、社員向け教育を定期的に行い意識を向上するなど、管理運用には万全を期しています。また情報セキュリティマネジメントにより継続的に運用・管理体制を見直すことで、お客様の信頼にお応えしています。



顔認識による入退室管理

■情報セキュリティポリシーマネジメントサークル

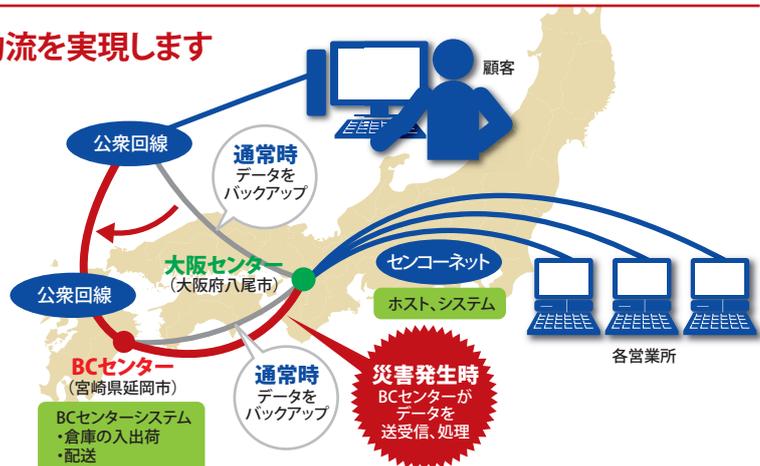


TOPICS

「災害に負けない」強い物流を実現します

データバックアップセンターを延岡に新設

地震などの災害によるシステム停止が万一発生した場合、お客様をはじめとしたサプライチェーン、さらに社会に大きなダメージを与えてしまいます。現在重要データは、大阪府八尾市のデータセンターでバックアップを図っていますが、この地域に上町断層帯が存在するため、活断層がない宮崎県延岡市にバックアップセンターを設置。2010年9月から運用を開始し、大阪のセンターと物流業務データの共有化を図り災害リスクを回避します。回線を遠隔地のセンターに切り替えて物流システムを再開する取り組みは国内では初めてのもの。被災時でも3時間以内の業務復旧が可能となります。



環境方針

「環境先進企業」として、温暖化防止活動を前進させます。

事業活動の中で環境に大きな負荷を与えているのが物流企業です。センコーでは、環境保全のために物流が果たすべき役割を認識し、地球環境に対応する主体的・積極的な取り組みを推進。2010年度より「Ecoイノベーション2012活動」をスタートさせています。

環境方針

環境理念

次世代へと継承していくべき地球が、豊かな自然環境に恵まれ続けるために、私たちはすべての事業活動を通じて、自主的かつ積極的に省エネルギー・省資源をはじめとする環境対策に配慮し、環境の保全及び継続的改善に取り組みます。

基本姿勢

私たちセンコーグループは、地球環境問題を人類共通の重要課題と捉え、「良き企業市民」として主体的で継続的な環境保全のための基本方針を定め、環境との調和を図りつつ、流通情報企業として社会に貢献します。

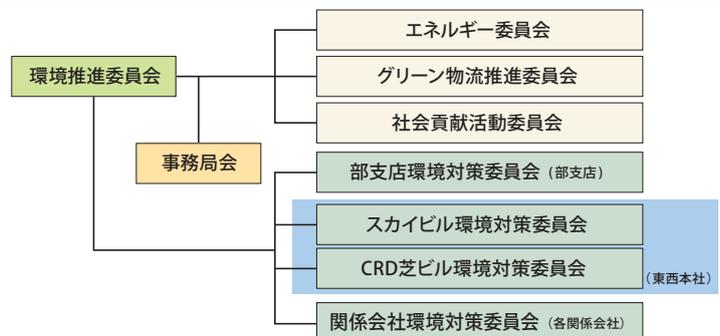
基本方針

1. 環境に関連する法規制、条例、協定を順守し、環境汚染の予防および環境保全に努めます。
2. 事業活動によって生じる環境への影響を調査・把握し、環境に負荷を与える要因の低減を継続的に推進します。また、環境負荷を低減する新しい技術や設備などの導入を図ります。
3. あくなき創造性を発揮し、環境に貢献する高度なロジスティクスシステムを提案していきます。
4. この方針を達成するため、環境活動推進体制の整備、環境管理規程の整備、環境目標を設定し、推進します。
5. この方針を全従業員に周知するため、環境教育、啓発活動を実施するとともに、本方針を社外に公開し、情報を提供します。

2010年5月28日

環境推進体制

グループ体となった環境活動を推進するための組織体制を整えています。その中核となるのが「環境推進委員会」で、環境改善課題を検討し、「エネルギー」「グリーン物流推進」「社会貢献活動」の各委員会ではそれに基づいた具体的施策を立案し、目標の達成に向けた取り組みを行っています。



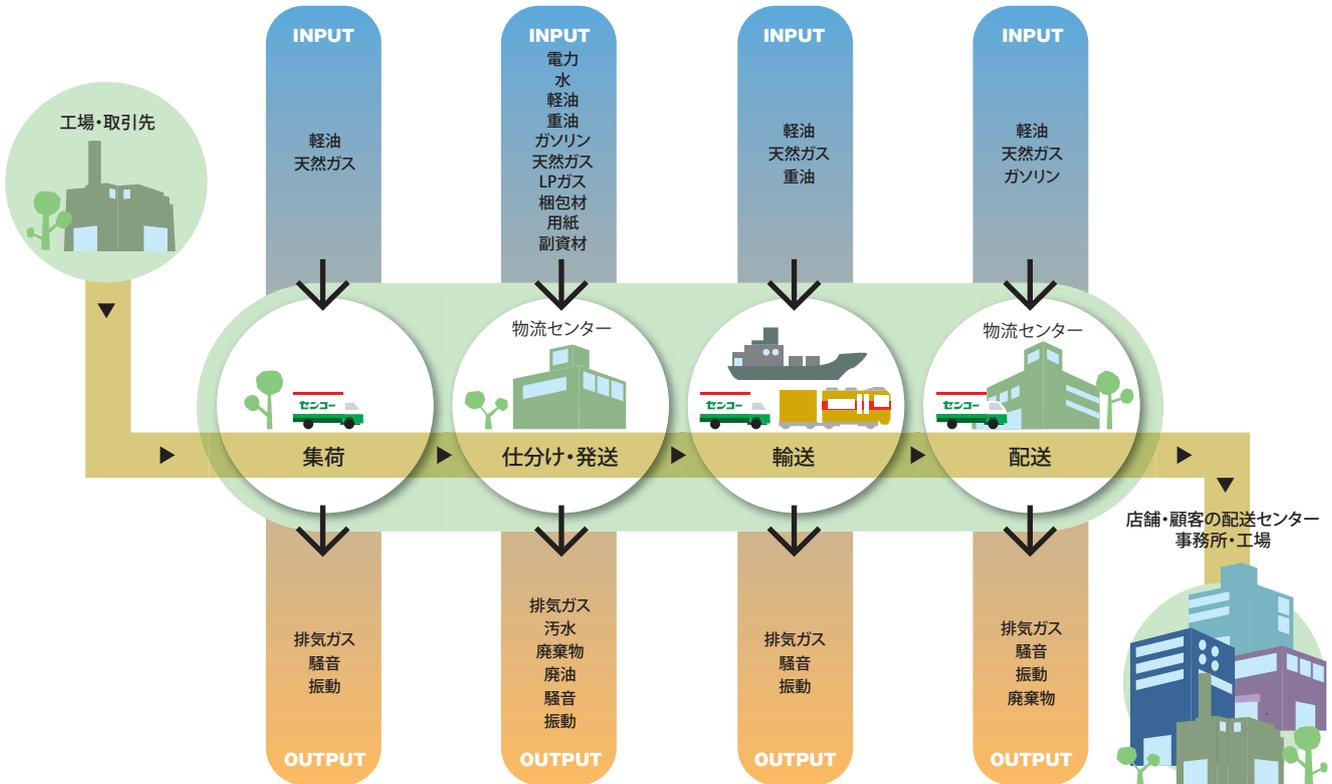
環境マネジメントシステムの推進

環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証取得サイトをモデル事業所として、全社の独自の「センコー環境マネジメントシステム(SEMS)」を構築し、展開しています。

ISO14001規格の認証取得事業所においては、2004年版への改訂にも対応し、新規格に合わせてマニュアルや基準書類を改訂、活動も移行しました。改訂規格審査による認証は、2010年1月の更新審査によって現在も継続されています。

環境影響の全体像

センコーは、事業活動に伴い発生する環境負荷を可能な限り低減するために、資源やエネルギーの使用量[インプット]と、CO₂や廃棄物の発生量[アウトプット]を数値化する等、事業活動全体を通しての環境負荷の把握と削減に努めています。

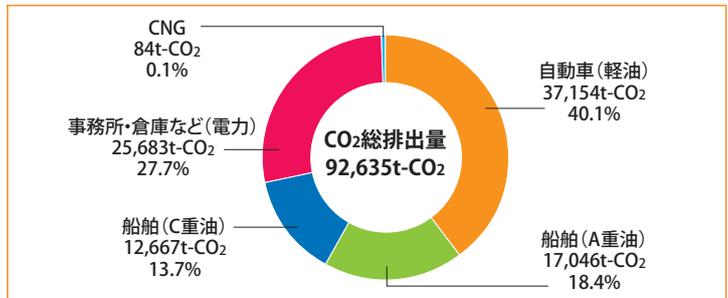


INPUT	
軽油	14,400 kL
重油	10,539 kL
電力	60,037,219 kWh

OUTPUT	
CO ₂ 排出量	92,635 t-CO ₂

CO₂排出係数は、2006年3月29日に改訂された地球温暖化対策の推進に関する法律施行令による。

CO₂排出量要因別内訳



CO₂排出状況について

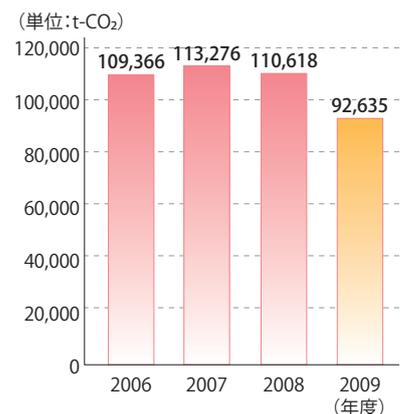
センコーは、事業活動で使用している自動車や船舶、事業所、倉庫の使用に伴う温室効果ガス(CO₂)排出量の把握と削減に努めています。2009年度のCO₂排出量は、92,635t-CO₂で、対前年度比マイナス16.3%、17,983t-CO₂減少しました。

主な要因として、貨物自動車の燃料である軽油からのCO₂排出量は、貨物自動車の台数の減少による使用量の減少と、デジタコによる管理強化、エコドライブの推進による燃費向上(対前年比1.3%)などにより対前年比6.7%減少しました。

また電力については、省エネ法の報告基準に合わせ管理権原のあるものに今回の数値を限定したため、それによるCO₂排出量も減少(対前年比マイナス15.3%)しましたが、管理権原のない部分も含めた全体ではCO₂換算で1%の減少に留まっています。これは省電力対策に着手していましたが、新設倉庫の稼働開始などから電力使用量が増加したことによるものです。

重油の使用によるCO₂の排出量は対前年度比5.2%減少しています。これは、内航海運市況の低迷による輸送物量削減により船舶の内1隻の運航を1ヶ月間停止したことによります。

[年間CO₂排出量の推移]



センコーの環境目標と成果

第Ⅲ期「環境マスタープラン」(2007～2009年度)

環境マスタープランは2001年度より制定。
第Ⅰ期は「従業員への環境啓発活動」、
第Ⅱ期は「環境活動の着実な実践」、
そして第Ⅲ期は「社外に環境活動領域を広げる」を目指した
取り組みを実施し、着実な効果が認められています。

基本的な考え方

持続可能社会を目指した環境対策への積極的な対応と、
ロジスティクスの高度化による物流環境貢献企業を目指していく。

環境目標(2006年度比)(2009年度までの中期目標)

1. CO₂排出量の5%削減
2. 廃棄物排出量の売上当り30%削減
3. 個別目標
 - ①自動車燃料:燃費3%削減
 - ②電力:売上当り使用量3%削減

第Ⅳ期「環境マスタープラン」(2010～2012年度)

中期経営計画では、以下の環境目標を掲げて
「センコーEcoイノベーション2012」
活動を推進します。

基本的な考え方

資産生産性の向上、法規制遵守と管理システムの充実、
積極的にマーケットに働きかけることで競争力の向上を目指していく。

環境目標(2009年度比)(2012年度までの中期目標)

1. CO₂削減に関する活動
トンキロ当たりの燃料使用量削減目標:年次1%削減
(車種別最高燃費への挑戦、省燃費タイヤの装着推進等)
2. エネルギー使用量:年次1%削減
(売上当り※直営倉庫他、電力デマンド機器設置による省電力等)
3. グリーン物流提案件数:2012年度倍増
4. リサイクルの推進(紙の再生):年次平均3,500ト

第Ⅲ期「環境マスタープラン」総括

		2007年度結果	2008年度結果
定量目標	CO ₂ 排出量	2006年度比 3.6%増加 ※(売上当り比では、3.0%増加)	2006年度比 0.9%増加(売上当り)
	廃棄物排出量	2006年度比 35.1%削減(売上当り)	2006年度比 48%削減(売上当り)
	自動車燃費	2006年度比 2.4%向上	2006年度比 3.9%向上
	電力使用量	2006年度比 14.9%増加	2006年度比 11.5%増加(売上当り)
設備の低公害化	低公害自動車導入	4トン車以下在籍比率 6.5%	4トン車以下在籍比率 8.7%
	低公害リフト導入	在籍比率 64.4%	代替・増車中比率 79.2%
	省エネ設備導入	・助成金を活用し4カ所の倉庫事業所で高効率照明に転換 ・省燃費タイヤの効果テストで一定の省燃費効果を確認	水島物流センターに太陽光発電を導入
環境負荷低減活動	エコドライブの徹底	・デジタコを導入、約70%の車両に装着 ・自動車管理web稼働	省燃費タイヤ、アイドリングストップ機器をテストし社内推奨開始
	廃棄物発生抑制	廃棄物リサイクルガバナンスモデル事業所を設定し体制構築モデルを作成	廃棄物リサイクルガバナンス体制の全社への展開を開始
環境貢献活動	グリーン物流の推進	・モーダルシフト、輸送設備の大型化、拠点集約、共同輸送などに取り組む ・グリーン物流パートナーシップ推進事業助成金を活用し延岡支店が拠点集約実施	・グリーン物流パートナーシップ推進事業助成金を活用し奈良支店が拠点集約実施 ・また、共同提案者として荷主の物流拠点集約に参画
	社会貢献活動の推進	・子ども交通安全教室開催(4カ所) ・各事業所周辺の清掃を実施	・子ども交通安全教室開催(6カ所) ・各事業所周辺の清掃を実施
環境マネジメント	ISO14001認証取得	三協貨物(株)平田支店が新たに活動に加わり、9事業所を認証範囲として活動	大口PDセンターが新たに活動範囲に加わり10事業所が認証範囲となる
	グリーン経営認証の推進	四国冷凍高松配送センターが認証を更新	千葉支店車輛センター他計15事業所が新たに認証を取得

※第Ⅲ期環境マスタープランではCO₂の排出量目標を絶対量としていたが、省エネルギー法で要求されるエネルギーの目標が単位当たりとされていることに対応して、2008年度より「売上当り排出量」で年次目標管理していくこととした。



デジタコを約70%の貨物自動車に装着



「バルクコンテナ」を導入

担当役員総括

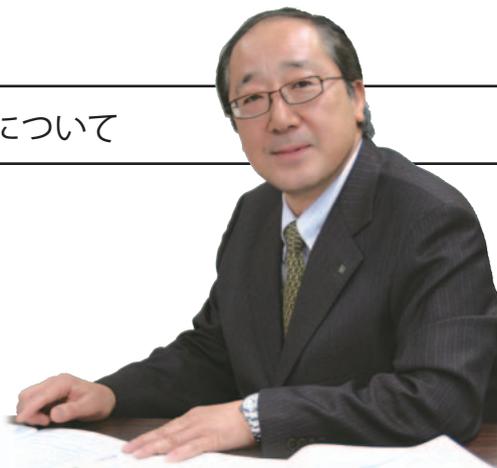
第Ⅲ期の総括と第Ⅳ期の環境目標について

センコーは、2009年度までの第Ⅲ期環境マスタープランでは、物流環境貢献企業を目指し活動をしてまいりました。改正省エネ法の対応もあり、自動車の燃費については、特に力を入れデシタコ全車導入やエコドライブ運転の徹底により、当初目標3%に対し、燃費を6%向上させることができました。

CO₂等のその他の目標についても、絶対的な削減はできましたが、2009年度の売上減少により、売上比の目標は達成できませんでした。

2010年度からの第Ⅳ期の環境マスタープランでは、環境先進企業を目指し、電力使用量削減を中心とした資産生産性の向上を目指していきたくと考えています。

また、当社の商品である内航海運や通運事業を利用したモーダルシフト提案により、物流環境貢献企業として、積極的にマーケットに働きかけていきたいと考えています。

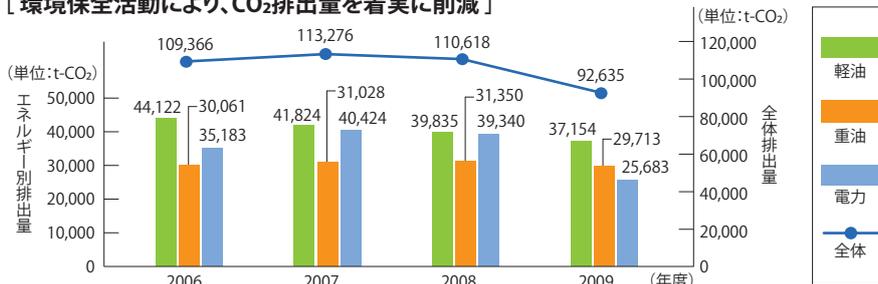


取締役専務執行役員 環境推進委員会
委員長 高橋 久男

2009年単年度目標	2009年度取り組み進捗・結果
2006年度比 5%削減(売上当り)	2006年度比 12.8%削減(売上当り)
2006年度比 50%削減(売上当り)	2006年度比 37%削減(売上当り)
2006年度比 3.8%向上	2006年度比 5.0%向上
2008年度比 1%削減(売上当り)	2008年度比 13%削減(売上当り)(2006年度比2.8%削減(売上当り)) 管理権原の無いテナント分を除いた場合 (テナント分を含めると2008年度比3%増加(売上当り)、2006年度比14.3%増加(売上当り))
低公害車導入推進	・2009年度にはCNG車4台導入し、低公害車の在籍は64台となったが、中期計画の当初目標の120台に対しては約半数に留まった ・継続して推進、4トン車以下代替時に本社承認を得ることとした
低公害リフト導入推進	2009年度期末低公害リフト在籍台数は1,681台で全リフトに占める比率は66%となり中期計画の目標(75%)に近づいた
・高効率照明設備導入(4カ所) ・自動販売機省エネ型転換を推進	・2009年度導入実績は2カ所(神奈川、大阪)であった ・自動販売機69台を省エネ型へ転換した
デジタコを活用しエコドライブの徹底に取り組む	デジタコの全社統一基準値を見直し、エンジン回転数を車種別設定に変更
廃棄物リサイクルガバナンス体制の全社展開を継続	・仙台、関西、中国地区での体制構築に取り組む ・関東地区電子マニフェスト化推進
グリーン物流パートナーシップ 助成金も活用してグリーン物流に取り組む	助成金を活用した取り組みは無いが、グリーン物流を推進
・こども交通安全教室開催(10カ所) ・事業所周辺の清掃各事業所で実施	8カ所で開催 各事業所で実施
ISO14001認証取得継続的改善活動に取り組み、 認証更新を目指す	更新審査を受け認証を更新
全社ヘグリーン経営認証を拡大	12の事業所が新たに認証取得し、認証取得事業所数は28カ所となる



太陽光発電などの自然エネルギーを積極的に活用

[環境保全活動により、CO₂排出量を着実に削減]

地球温暖化防止への取り組み

CO2排出量削減への取り組み

デジタル式運行記録計を活用した「エコドライブの推進」

センコーグループでは、燃料消費やCO₂排出量を抑制する省エネ運転方法（エコドライブ）を推進しています。タコグラフ（運行記録計）のデジタル化を推進した結果、2009年度末グループ総数約3,174台中1,983台（全体の約6割）の車両へ装着し、活用しております。

デジタルタコグラフ（通称：デジタコ）にエンジン回転数上限などの上限値を設定し、超過時に警告音を発するとともに運転状況を点数評価することで、ドライバーへ省エネ、安全運転を促しエコドライブを推進しています。2009年にはこの評価基準値を見直し車種別の最適基準値を設定し、燃費改善の底上げを図りました。新基準に基づいて今後さらなるエコドライブの徹底を進めていく考えです。



デジタコ車載機本体



デジタコハンディターミナル

低公害車への切替対応

2009年度は、低公害トラック導入計画の実施率を高めるため、全社予算管理部門から予算編成時に各部門へ導入推進を指示しましたが、設備投資を見送る傾向が強く、購入台数が大幅に減少しました。

センコーグループで低公害車の導入計画をしている各部門への営業強化をトラックメーカーへ要請しましたが、2010年3月時点でのトラック購入総台数118台に対し低公害車は4台に留まっています。

結果的には、2010年3月時点での低公害車在庫は64台となっており、前中期経営計画の目標（120台）は達成できない見込みとなりました。

今後は、低公害車両への代替を推進するために、4トン車以下の車両購入、代替については本社の社内設備管理部門の承認を得ることをルール化し、導入促進を図っていく考えです。



低公害フォークリフト



CNG車

蓄冷式クーラー導入状況

アイドリングストップによる燃費向上を図るため、蓄冷式クーラーを社内に推奨しました。蓄冷式クーラーとは夏期の長距離便の車中仮眠時、荷の積み下ろし待ちや車内休憩時にエンジン停止状態で使用可能なトラックキャビン用のクーラーです。長距離仮眠時と車内休憩で、真夏でも快適に車内待機できます。また、アイドリングストップによる燃料節減によるCO₂削減や費用対効果も紹介し社内導入を進めています。



2010年3月 奈良支店に装着済み新車両を導入

ドライバーの皆さんに蓄冷式クーラーの感想を聞きました。



エンジン停止時も、涼しく快適です。

三重支店 川崎智也 社員

トラックメーカーごとに蓄冷式クーラーの取付位置が異なり、冷風の効き目には差があるようですが、車内での食事休憩や1時間程度の荷待ちでは充分涼しく快適に過ごせ、アイドリング・ストップすることができます。車両に対するエコ装備が今後も増えれば、現場でCO₂削減に貢献できることは多いと思います。

省燃費タイヤの導入

トラックの普通のタイヤに替えて装着することで省燃費効果が期待でき、特に高速道路の走行の比率が多い車両で効果が現れやすい省燃費タイヤについて社内推奨し、導入を図っています。2009年度に購入したトラック用タイヤの内、省燃費タイヤの購入比率は8.9%となっています。

物流効率化への取り組み

グリーン物流パートナーシップ取り組み事例

CO₂等の温室効果ガス排出量の抑制・削減を図ることを目的に、荷主企業と物流事業者の連携による取り組みを経済産業省・国土交通省等の主催で支援しているのが、「グリーン物流パートナーシップ会議」です。荷主企業と物流事業者の協働・連携による実施計画が、「グリーン物流パートナーシップ会議」で推進事業として認定されると、NEDO（新エネルギー・産業技術開発機構）の審査を経て、「エネルギー使用合理化事業者支援事業」補助制度を利用できるようになります。

センコーでも荷主とのパートナーシップにより、以下の案件について申請、採用されています。今後も荷主様と協働することで、物流効率化を推し進める考えです。

みんなで地球にやさしい物流を



[2007年度～2009年度の取り組み事例]

モーダルシフト(輸送手段の転換)への取り組み

トラック輸送 から 鉄道輸送 へのシフト

[認定年度]2006年度
[業種名]化学メーカー

樹脂バルク物流の大型化・拡大によるCO₂の削減

●10tホッパーコンテナから16tシーバルクコンテナへの転換(補助金受給)

[認定年度]2006年度
[業種名]物流業者

31ftクールコンテナによる東京～大阪間、冷凍食品共同配送の鉄道往復輸送

●荷主私有コンテナのみ助成対象

[認定年度]2008年度
[業種名]鋼材メーカー

鋼材(構造用鋼)の埼玉～関西間輸送の鉄道へのモーダルシフト

●荷主私有コンテナのみ助成対象

トラック輸送 から 海上輸送 へのシフト

[認定年度]2007年度
[業種名]化学メーカー

樹脂バルク物流の拡大・モーダルシフト推進によるCO₂の削減



拠点集約の取り組み

[認定年度]2007年度
[業種名]プラスチックメーカー

樹脂成型品輸送の物流拠点集約化

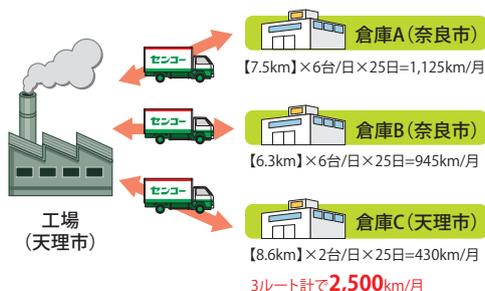
●2008年度版CSR報告書に掲載

[認定年度]2008年度
[業種名]樹脂メーカー

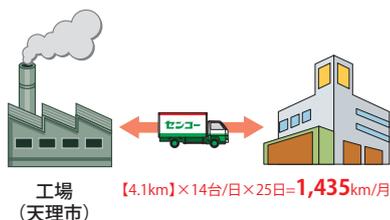
発泡プラスチックの輸送拠点集約化

●2009年度版CSR報告書に掲載

集約前 拠点(倉庫)が3ヶ所に分散



現在 拠点(倉庫)を集約し、輸送距離の削減による省エネを実現



工場～各倉庫間の年間延べ輸送距離=30,000km → 拠点集約後の工場～新倉庫間の年間延べ輸送距離=**17,220km**

約**42.6%**
の削減

[認定年度]2008年度
[業種名]空調機メーカー

空調機の輸送拠点集約化

●助成対象(パレット、治具、フォークリフト)の内、当社はフォークリフトのみ

環境関連法令・規制への対応

改正省エネ法への対応

省エネ法は正式には「エネルギーの使用の合理化に関する法律」と呼ばれ、1979年に産業の省エネルギー化を進めるため制定されたものです。その後何度も改正によりその対象が拡大されてきています。

そうした中、2005年度の法改正により、貨物の輸送を年間3,000万トンキロ以上行う荷主と、一定規模以上の輸送能力を有する輸送事業者も対象とされることになり、中長期の省エネ計画の策定、エネルギー使用量等について年次の定期報告が義務づけられました。この改正は、京都議定書における日本の目標達成に向け、日本の排出量全体の約2割を占める「運輸部門」への取り組みを強化するために施行されたものです。

さらに2008年度の法改正により、従来、大規模な工場などに対して省エネを求めていたものが、事業場だけではなく「事業者」全体へ省エネ推進が求められることとなりました。2009年度から、事業者は年間のエネルギー使用量を把握し、年間のエネルギー使用量が原油換算で1,500キロリットル以上の事業者は、使用量の届出と中長期の省エネ計画の策定と年次のエネルギー使用量の定期報告が求められることとなっています。

センコーについては、現状のエネルギー使用量規模から、特定事業者に指定される見込みのため、エネルギー使用量の削減対策を一層積極的に、また重点的に進めていく必要を認識し、今後の中長期的省エネ取組計画を策定しております。

物流業者への法的要求事項とセンコーの対応(2005年度改正)

センコーは一定規模以上の輸送能力を有する輸送事業者(特定輸送事業者)に該当し、その中でも、事業用自動車の貨物輸送の基準から「特定貨物輸送事業者」と指定されました。特定貨物輸送事業者に求められている事項、及び当社の対応は右の通りです。

- (1) 取り組むべき省エネ対策事項抜粋
 - ① 低燃費車両等の導入
 - ② 運転者教育、デジタル式運行記録計の活用によるエコドライブの推進
 - ③ 共同輸送の実施等による積載率向上、帰り荷の確保
 - ④ 車両情報システムの利用等による車両運用で空車走行の縮減
- (2) 届出・報告事項
 - ① 特定輸送事業者の指定に係る輸送能力の状況に関する届出(初年度のみ)
 - ② 特定輸送事業者の中長期省エネ計画(毎年)
 - ③ 特定輸送事業者の定期報告(毎年)

※その他「定期報告事項」が設定されています。

工場・事業場への法的要求事項(2008年度改正)

[事業者が行わなければならない事項]

STEP 1 事業者全体でのエネルギー使用量の把握



STEP 2 エネルギー使用状況届出書の提出



STEP 3 特定事業者又は特定連鎖化事業者の指定



STEP 4 エネルギー管理統括者の選任



STEP 5 事業者単位でのエネルギー管理の実施



STEP 6 中長期計画書・定期報告書の提出

1. 取り組むべきエネルギー使用の合理化の基準

事業者が取り組むべき事項

- ① 設置している工場等(以下工場等という)について効率的かつ効果的なエネルギーの使用の合理化(以下省エネという)を図るための管理体制の整備。
- ② 上記で整備された管理体制には責任者(エネルギー管理統括者)を配置
- ③ 工場等における省エネ取組方針を定め、その中に省エネの目標、設備新設・更新も含める。
- ④ 工場等における取組方針の遵守状況を確認するとともに、その評価を行い、不十分の場合は改善を行う。
- ⑤ 取組方針及び遵守状況の評価手法は、定期的に精査を行い必要に応じ変更する。
- ⑥ 工場等に係る名称、所在地及びエネルギー使用量を記載した書面を作成、更新、保管することにより状況を把握する。

基準として以下の項目で「管理」、「計測及び記録」、「保守及び点検」、「設備新設の措置」についてそれぞれ詳細を定める。

(1) 専ら事務所、これに類するものに関する事項

- ① 空調・換気設備
- ② ボイラー設備・給湯設備
- ③ 照明設備、昇降機、動力設備
- ④ 受変電設備
- その他4項目

(2) 工場等に関する事項

- ① 燃料の燃焼の合理化
- ② 加熱及び冷却並びに伝熱の合理化
- その他4項目

2. エネルギー使用の合理化目標及び計画的に取り組むべき措置

努力目標: 事業者ごとに原単位年平均1%以上の低減
業種ごとのベンチマークの設定

環境認証取得の状況

ISO14001認証取得への取り組み

センコーでは、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001を右記の事業所で認証取得しています。

環境監査への対応

ISO14001認証取得の事業所では、環境活動の実施状況の点検のため、資格を持った社内の監査員による内部環境監査を1年に1回、外部審査機関(JQA)の審査員による審査を年に1回受けています。内部監査や外部審査で指摘を受けた事項については、真摯に受け止め、速やかに改善を図っています。

2009年1月に外部審査機関(JQA)による更新審査を実施した事業所においては、2件の指摘事項があり、所定の期間内に是正を図りました。この結果、認証の継続が決定されました。また「改善の余地がある」とされた事項についても、各事業所で改善に取り組んでいます。



外部審査機関による更新審査

[ISO14001認証範囲の事業所名 (2010年4月6日現在)]

認証範囲事業所名

名古屋主管支店(中部営業部を含む)
名古屋営業所
金沢営業所
小牧支店(小牧営業所を含む)
大口PDセンター
静岡東支店(富士車輛営業所を含む)
新富士PDセンター
西富士物流センター
三重支店(三重輸送センターを含む)
三協貨物株式会社平田支店



ISO14001認証登録証

グリーン経営認証の推進

「グリーン経営認証制度」とは、国土交通省が所管している「交通エコロジー・モビリティ財団」が推進する、地球環境に優しい活動を行っている企業の事業所を認証する制度です。具体的な環境保全項目を明らかにし、一定レベル以上の取り組みを行っている事業者を審査の上、認証して登録する仕組みで、事業所毎に環境目標を設定し評価を受けることができます。

センコーグループでは、この制度の対象とされている「自動車事業所」と「倉庫事業所」の全社的認証取得を目指しています。順次各事業所の認証の準備と申請を行い、認証取得を全社的に拡大していきます。



阪神車両センターグリーン経営審査



[グリーン経営認証登録事業所 (2010年3月31日現在)]

トラック運送事業

柏支店 柏営業所
千葉支店 車両センター
神奈川支店 東扇島車輛センター
関東住宅支店 厚木躯体センター
京滋主管支店 守山PDセンター
京滋主管支店 栗東営業所
阪神支店 阪神車両センター
九州主管支店 福岡PDセンター
北九州支店 小倉営業所
北九州支店 大分営業所
北九州支店 中津営業所
神奈川センコー運輸(株)
大阪センコー運輸整備(株) 南河内営業所
中四国ロジスティクス(株) 四国冷凍運輸倉庫事業部高松配送センター

倉庫業

柏支店 柏PDセンター
東京主管支店 舞浜PDセンター
東京主管支店 平和島PDセンター
東京主管支店 京浜PDセンター
東京主管支店 市川ファッションロジスティクスセンター
神奈川支店 東扇島PDセンター
神奈川支店 東扇島物流センター
関東住宅支店 厚木物流センター
千葉支店 千葉物流センター
阪神支店 京都長岡営業所
阪神支店 西宮センター
阪神支店 西神戸PDセンター
阪神支店 住宅資材センター

内航海運業

海運部 東京事務所

安全活動方針

全てに優先する安全の維持に向けて、着実な取り組みを続けています。

より徹底した安全確保への取り組みとして、センコーグループは「重大事故ゼロ」を目標に掲げた活動を進めています。グループ全体の安全性をより高めるため、2006年10月に「安全方針」「安全向上のための6つの重点施策」を見直し、新たに策定し、安全活動を推進する「安全管理責任体制」を構築しました。

また貨物自動車運送事業法改正に合わせ、安全に関わる情報をホームページで公開しています。

<http://www.senko.co.jp/environment/transport/>

安全理念

「人間尊重」と「全てに優先する安全」の精神のもと、『完全0災職場を確保』を実現する。

1. あらゆる事故・災害は防止することができ、また防止しなければならない。
2. 管理者は従業員の安全に対する責任を負う。
3. 全従業員が「あらゆる事故をなくするのだ」ということを信条にしなければならない。
4. 安全は高品質と高生産性を確保する。

安全方針

基本姿勢

- 私たちセンコーグループは、物流事業の社会的使命を深く認識し、事業活動における安全確保が事業経営の根幹であることを、当社のために働くすべての人が正しく理解し、安全の向上に寄与する取り組みを推進する。
- 経営トップは、現場からトップまでが一体となって事業活動における安全の確保と安全性の向上に努めるよう積極的に主導する。

行動指針

1. 安全マネジメントシステムと安全衛生活動の継続的な改善を推進し、事故・災害防止と安全リスクの低減に努める。
2. 安全衛生に適用される法規、条例、協定および同意するその他の要求事項を遵守する。
3. 安全・衛生活動に関する情報について積極的に公表する。
4. この安全方針を達成するため、目的、目標を設定し、当社のために働くすべての人に周知し、理解と安全意識の向上をはかる。また、社外に安全方針を公開し、理解と協力を得る。

安全向上のための6つの重点施策

1. 事業における安全の確保が最も重要であるという認識を徹底し、関係法令及び安全管理規程に定められた事項を遵守する。
2. 安全に関する費用支出及び投資を積極的かつ効果的に行うよう努める。
3. 安全に関する内部監査を行い、必要な是正措置又は予防措置を講じる。
4. 安全に関する情報の連絡体制を確立し、社内において必要な情報を伝達、共有する。
5. 安全に関する教育及び研修に関する具体的な計画を作成し、これを確実に実施する。
6. センコーグループ全体の安全性が向上するように、一丸となって安全確保に努める。

安全管理への取り組み

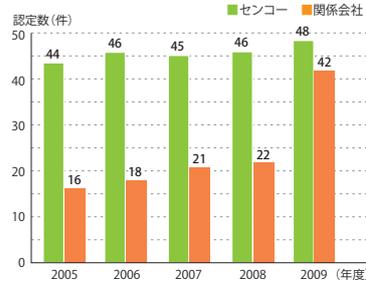
安全マネジメントシステム

センコーでは、安全活動の推進の手段として「安全マネジメントシステム」を策定し、これに沿った活動を行って、事故・労働災害の予防、再発防止に取り組んでいます。

安全マネジメントシステムによる安全活動

センコーは、全事業所の「安全性優良事業所認定」取得を目指します。安全性優良事業所とは、(社)全日本トラック協会(国土交通省指定)が事業者の「安全性に対する法令の遵守状況」、「事故や違反の状況」、「安全性に関する取り組みの積極性」において、評価基準に基づいて点数化し認定するもので、センコーでは2003年度から取り組みを開始。2010年2月現在、センコーで48事業所及び関係会社42事業所が認定を受けています。

[安全性優良事業所認定数推移]



認定証

[運行管理者研修]

この研修は、運行管理規程や行政処分、ドライバーへの指導方法などについて、管理者に対する再確認を目的に行ったものです。全社の自動車運送事業に携わる事業所から計142名が参加しました。



[安全担当者連絡会議]

全店の安全環境担当者を対象に年数回開催し、安全レベルの向上を図っています。

日常の安全活動の取り組み

日常的な点検や安全活動の着実な積み重ねが事故防止につながると考え、様々な安全管理を実践しています。

デイトライト(昼間点灯)活動や「HHK(ヒヤリ・ハット・気がかり)」活動、「こだわり運転3・5・5運動」(前車から3秒以上の車間を取る、停止線の5cm手前で停車、前車と5m以上の間隔を空けて停車する)など、潜在的リスクの低減を図るセンコー独自の安全活動を継続しています。

[こだわり運転3・5・5運動]

先頭で停車する時、停止線5cm以内で止める



安全関連法令の遵守対応

センコーは、「事業における安全の確保が最も重要である」という認識を徹底し、関係法令及び安全管理規程に定められた事項を遵守することを重点施策の一つに掲げ、安全向上に努めています。

立会点呼の100%実施による安全確保

運行管理者をはじめとして、運行管理補助者を活用し、立会点呼の100%実施に取り組んでいます。運行管理者や運行管理補助者立ち会いのもと、出発時に運転者へ健康チェックした上で運行指示し、帰着時の結果報告確認を執り行うなど、法令を遵守した安全管理を実施しています。

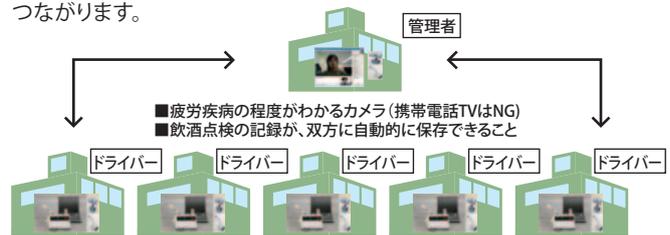
全自動血圧計と全自動アルコール検知機を使用した「IT点呼」の導入

法の定め(貨物自動車運送事業輸送安全規則)により、『輸送の安全の確保に関する取り組みが優良であると認められる営業所において、貨物自動車運送事業者が点呼を行う場合は、当該貨物自動車運送事業者は、対面による点呼と同等の効果を有するものとして国土交通大臣が定めた機器による点呼をおこなうことができる』とされています。



IT点呼(ドライバーはWebカメラの前に座り、点呼を受けます。)

IT点呼を導入することで、深夜、早朝、点呼時の管理者の負担を低減すると同時に点呼時の記録をデータ保存することができるため管理の徹底につながります。



「IT点呼をうける運転手が所属する営業所=被IT点呼実施営業所」(Gマーク必須)

充実の安全教育

「強い現場」・「卓越した現場」をつくる人材教育体制

自ら革新していく「強い現場」、そこから新しい価値を創造できる「卓越した現場」をつくること。この目標に向けた人材育成に力を注いでいます。全ての研修に、改善・革新をテーマとしたカリキュラムを導入し、各地域の現場に革新をもたらすリーダーの養成を目指します。また教育対象を協力会社や派遣・パート社員にまで広げ、センコー流を徹底させています。

安全教育カリキュラムの概要

センコーでは、各部支店などにおいて、職場の現場で実践するセンコー流の定着化と現場力の強化のための教育カリキュラムを作成し、実践しています。



日常点検



走行技能

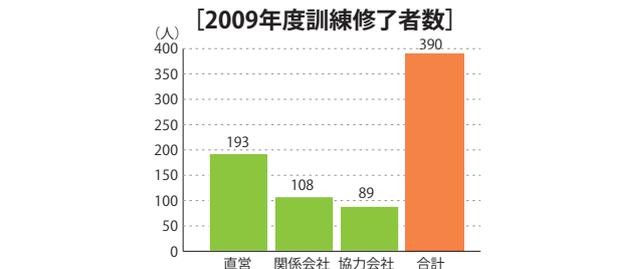
〔地区訓練〕

クレフィール湖東での訓練を受けられない人々を中心に、より多くの人に安全品質教育の機会を与える訓練を実施。



〔コーチ養成訓練〕

各部支店・関係会社・協力会社に安全品質をリードする核となる人材を育成する訓練を実施。



特徴的な教育プログラム事例

〔2009年度 基礎技能コーチ養成訓練「教育プログラム」〕

※プログラムの内容については、天候その他の事情により変更する場合があります。

時間	内容
8:00	開講式
9:00	①基礎技能コーチの役割
10:00	②OD式安全性テスト
11:00	③知識テスト
12:00	④基礎技能評価 ⑤日常点検 ⑥運転のメカニズム
13:00	昼食
14:00	④基礎技能評価 ⑤日常点検
15:00	⑦教え方体験・評価 インストラクターのスキルを学ぶ
16:00	基礎技能コーチ養成講習総評
17:00	閉講式



教え方スキル



日常点検評価



基礎態度評価

〔ドライバー 点検技術 スコアシステムの例〕※一部分

中分類	小分類	チェック項目	チェック結果
エンジンルーム	エンジンオイル	油量	<input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施
	ファンベルト	張り具合	<input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施
	エンジン	油しみ	<input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施
車内	アクセルペダル	噴け上がり	<input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施
	ブレーキペダル	踏みしろ	<input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施
	クラッチペダル	踏みしろ	<input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施
	パーキングブレーキ	引きしろ(エア音)	<input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施
	燃料	量	<input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施
	圧力計(エア)	圧力量	<input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施
	エンジン停止	停止	<input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施
	サイドミラー	写影	<input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施
	ワイパー	拭取り	<input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施
車両下	車両下	作動	<input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施
		水・油漏れ	<input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施

安全活動の評価・達成状況

外部団体・お客様からの高い評価

センコーの各支店・各関係会社では、組織として安全を守る取り組みを徹底し、また個々の従業員も高い安全意識・技能を身につけるべく日々研鑽を続けており、多くの外部団体・お客様から評価され信頼されております。

1.支店・関係会社表彰

■札幌主管支店

給油取扱所で地道な防火対策を進め43年間無事故・無災害を継続し、札幌東区危険物安全協議会からの表彰受賞

■京滋東支店

(社)滋賀労働基準協会東近江支部から連続255日の無災害記録に対する表彰受賞

■東京主管支店

地道な安全衛生活動が評価され、江戸川労働基準監督署からの表彰受賞

■(株)クレフィール湖東

SD(セーフティドライバー)カードの高取得率で、滋賀県安全運転管理者協会から2年連続「金賞」受賞

2.個人表彰

■延岡支店 愛宕営業所

太田 稔満/強い防災意識に対し、旭化成ケミカルズ(株)愛宕事業場さまから「防災賞」受賞

■奈良支店 奈良車輛営業所

林田 誠・山本 剛/(社)全日本トラック協会から、長年の無事故・無違反に対し「金十字賞」受賞

■関東センコー運輸整備(株)

下酒井 正夫/群馬県トラック協会から、15年以上の無事故無違反で「優良運転者賞(金賞)」受賞

■京滋主管支店 守山PDセンター

今村 崇之/「平成21年度エコ・セーフティドライブコンテスト」で好成績を収め、ゴールドマイスターに認定

■京滋主管支店 守山PDセンター

小池 秀樹/35年にわたる勤続・無事故により、国土交通省大臣から「事業用自動車運転者表彰」受賞

■南九州センコー(株) 構内営業所

下川 洋一/12年にわたる無事故・無災害に、陸上貨物運送事業労働災害防止協会から「優良フォークリフト等運転者表彰」受賞



Topics

交通指導員として40年

「内閣府表彰」を受けた当社OBの吉田照男さん

9月14日、延岡支店OBの吉田照男さんが、交通安全功労者として「内閣府表彰」を受けました。

吉田さんは、交通指導員として、高齢者・子供向けの交通安全教室や街頭指導で活動し、40年にわたり市民の交通安全を見守ってきました。

「宮崎日日新聞」(10/12掲載)から取材を受けた吉田さんは、「長いようで短い40年間でした。今後も健康に注意して安全を守りたいと思います」と語りました。



街頭指導中の吉田さん(宮崎日日新聞 提供)



宮崎日日新聞(10/12掲載)

安全品質・技能向上の取り組み

センコーでは、運転技能競技大会などへの参加や表彰を通して、運輸業のプロとしての安全・品質に対する意識、技能の向上を目指すとともに、ドライバー及びオペレーター個々のやる気の創出につなげています。また、各部支店、関連会社がドライバーを対象に様々な表彰を行っています。

社外技能コンテストに参加

(社)全日本トラック協会が主催する「全国トラックドライバーコンテスト」にも、毎年参加しています。

2009年の第41回大会では、各地域大会を勝ち抜いたセンコーのドライバー9名が出場し知識や技能を競いました。田中社員がトレーラー部門で3位入賞しました。

[全国トラックドライバーコンテスト 出場者]

地区大会で優勝または準優勝し、10月24・25日開催の全国大会に出場したメンバーです。

〈4トン部門〉	
千葉支店 車両センター	石渡 光一
〈11トン部門〉	
静岡西支店 浜松PDセンター	笹本 浩二
京滋主管支店 守山PDセンター	荻野 明宏
京滋東支店 福井営業所	山口 盛央
奈良支店 奈良車両営業所	堀川 順弘
延岡支店 第2車両係	松下 拓也
〈トレーラー部門〉	
阪神支店 阪神車両センター	田中 啓一
三重支店 三重輸送センター	川崎 智也
北九州支店 大分営業所	工藤 文則

[トラックドライバーコンテスト]

コンテスト参加結果				
年数	地区大会出場者	全国大会出場者数	全国大会入賞者数	全国大会順位
2005年度	35	7	2	2位、3位
2006年度	37	8	1	2位
2007年度	47	11	0	—
2008年度	54	6	2	5位、特別
2009年度	60	9	1	3位

[フォークリフト運転競技(2009年度)]

部門	地区大会出場者
カウンター	78
リーチ	5
合計	83



参加メンバー

■全国トラックドライバーコンテスト



全国ドラコン競技風景

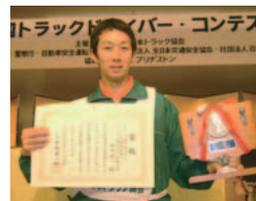


全国ドラコン競技(点検)



全国ドラコン競技(後進)

入賞受賞者



全国大会に出場して

トレーラー部門3位入賞者
阪神支店 阪神車輛センター
田中 啓一 社員

地方大会も全国大会も初めてのことで不安でしたが、「整備点検」や「運転技能」は大きなミスをすることも無く、自分の力を発揮できました。

時間制限もあり、課題走行の「5字後退」と「車庫入れ」は、念入りに練習をしていたので本大会でもうまくできました。

入賞できるとは思っていませんでしたが、終わってみて3位という結果については正直悔しいです。ただ、結果が出せたことはうれしかったです。

今回の大会が終了した時点で、次の大会も出たいと上司にお願いをしましたので、次回は優勝をして「内閣総理大臣賞」を狙いたいです。

快適職場環境づくり

「健康」と「働きがい」を大切にした職場環境づくりを進めます。

企業の成長は人財によって支えられています。

センコーでは、従業員一人ひとりが健康で、仕事にやりがいを見いだすことができる職場づくりを目指しています。健康推進室を中心に目標や意識を持って活動に取り組むことで、企業の活力向上につなげています。

「センコー健やか活動」をさらに充実させています

「センコー健やか活動」は、厚生労働省が展開する「健やか生活習慣国民運動」を受けた、センコーグループ独自の健康増進活動です。2008年4月にスタートし、適度な運動や健全な食生活、禁煙などを従業員に呼びかけてきました。2009年度はさらに一歩進めて、家族の参加を促した活動を実施し、多くの方に参加いただきました。

楽しんで参加できるキャンペーンを企画

約9割の従業員が健康目標を達成

健やか活動の強調月間として、5～6月・10～11月には、センコーグループの全従業員にエントリーシートを配布。個々のレベルに合った健康プランに取り組んでもらいました。エントリー数は5～6月8,907名、10～11月8,929名で89.4%の方が目標を達成。2008年度の84.7%を上回る結果となりました。またご家族の方も269名が目標を達成しました。



【健康プランの一例】

- 禁煙する
- 1日10,000歩以上歩く
- 週に2回休肝日をつくる
- 1日1時間以上の運動を週2回する
- 毎日ストレッチ体操をする etc…

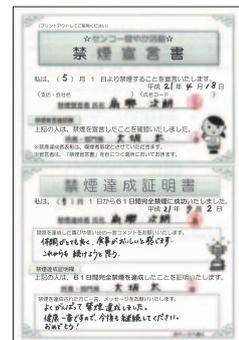
衛生管理体制と予防活動を重点的に

2009年度は、禁煙キャンペーンを開始。57名の従業員が「61日間完全禁煙」を達成し、健康的な生活習慣を手に入れました。2010年度は、支店・グループ会社ごとに「喫煙率低減活動」に取り組み、喫煙人数の2009年度（喫煙率48%）比5%削減を目指します。

また重点取り組みとして、産業医や看護職の配置などの体制整備、グループの衛生管理体制の整備を段階的に進めていきます。長時間労働者への医師による面接指導などの健康障害防止活動にも力を入れる考えです。



目標達成者には参加賞をプレゼント



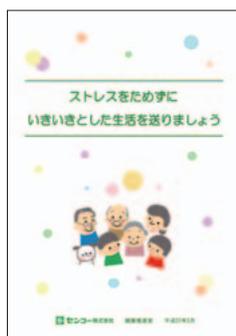
禁煙宣言書

メンタルヘルスケア活動を強化します

近年社会問題となっているメンタルヘルス対策についても、メンタル面の不調の予防や早期発見と対処を各職場で実施できるように対策を進めています。

2009年度は、全従業員を対象に職場で冊子の読み合わせ勉強会を開催し、ストレスがたまった時の対処法、相談窓口の周知を図りました。また、管理者に対して、東京・大阪・九州の3地区で傾聴実習を交えた「マネジメント研修」を実施、職場におけるストレス要因の把握と改善、従業員からの相談対応などを実施するラインケアの意識を高めました。

2010年度の職場勉強会は、リニューアルした冊子とDVDを併用して進めることにしています。



2010年度版職場勉強会用資料



メンタルヘルスマネジメント研修

私達が従業員の健康を応援します!

「自分が健康になってくのが分かり楽しい」
「次は違う目標を達成したい」と、『健やか活動』に参加された従業員の皆さんからは嬉しい報告をいただいています。様々な職場やグループ各社の現状をより把握して、全グループ従業員が健康活動を実行できる体制を整えたいと思います。



健康推進室 柳原富佐子社員、萩原宏美社員、伊月由季社員

ワンランクアップ活動の推進について

センコーでは、労働安全衛生法の規定を守り、仕事による疲労やストレスを感じる事の少ない快適な職場の証となる「快適職場推進計画(中央労働災害防止協会)」の認定取得に向けた取り組みを進め、2008年度までに232事業所での計画への認定取得を完了しました。

これを受け、今の状態よりワンランクアップした職場環境づくりを目的とした活動をスタートさせました。2009年度は「受動喫煙」「熱中症」から従業員を守る活動を展開。事業所毎に様々な改善活動に取り組みました。

【事業所で「受動喫煙」「熱中症」対策】

- ①「受動喫煙対策」「熱中症対策」を各1項目以上取り組むこと
- ②熱中症対策に問題のない職場はその他の項目について検討すること

【優良取り組み事例】

受動喫煙対策	
名古屋主管支店 豊橋営業所	連絡車輛の非喫煙化
三重支店 三重輸送センター	喫煙場所を室内から室外へ移動
熱中症対策対策	
埼玉南支店 戸田第1PDセンター	安全会議で勉強会実施
名古屋主管支店 名古屋営業所	冷却キャップ配布、倉庫に冷蔵庫を設置
名古屋主管支店 フタムラ配送センター	シートシャッターの開放
京滋東支店 北花沢営業所	スポットクーラー設置
阪神支店 阪神住宅資材センター	冷却マット
延岡支店 日向営業所	日よけシート設置

多様な働き方を応援するダイバーシティワーク

雇用機会均等推進委員会と女性躍進推進委員会を統合した「ダイバーシティワーク推進委員会」が2009年度より活動を開始しました。これは、男女という性差だけでなく、外国人や障害を持つ方も含めて、全ての人が違いを活かして生き活きと働ける職場環境づくりを目指した活動です。従業員満足を向上するために、具体的数値目標を制定した以下の取り組みを実践しています。



ダイバーシティ推進ポスター

- ◎オペレーター職、ドライバー職の女性比率の拡大
- ◎「働きやすい」「働き続けられる」職場環境づくり
- ◎法令等に基づく企業の責務への対応の推進
- ◎エリア委員会を新設し、支店主導の生きた活動を実践

働きやすい職場を創る制度を整備

〈専任職制度の見直し〉

全国型勤務を前提とした総合職を見直し、エリアスタッフ(地域型勤務)を新設。

〈両立支援制度の拡大〉

マタニティ休暇制度・分割勤務制度・ウエルカムバック制度を新設。

〈女性のキャリア支援〉

全女性正社員を対象に「自分探し研修」を実施。



社長と女性社員の直接懇談会を2009年7月4日に実施しました

地域での社会貢献活動

子供たちの安全を守るために、「交通安全教室」を全国で展開しています

地域の皆さま、特に未来を担う子供たちの安全を守る取り組みは、物流企業の務めであるとセンコーは考えています。「安全を全てに優先させる」—この安全教育で培ったノウハウを地元に戻元すること。そして、一人でも多くの子供が危険を回避できることを願って、交通安全教育を継続して行っています。

クレフィール湖東で開催した「子供交通安全フェスタ」から始まった「こども交通安全教室」は、2007年度は5都市、2008年度は6都市、そして2009年度は8都市で実施され全国的な広がりを見せています。

プロのドライバーから正しい交通知識を楽しく学びます

「こども交通安全教室」では、子供たちとその保護者に参加いただき、交通ルールを守ることの大切さを伝えています。また横断歩道の安全な渡り方、車の死角などについて、単に説明をするだけでなく、実際に子供たちに体験してもらい交通安全の知識を楽しく学んでいただく。これがセンコー「こども交通安全教室」の大きな特徴です。

講師を務めるのは、各営業所の安全運転トレーナーやクレフィール湖東のインストラクター。運転のプロならではのアドバイスは、分かりやすくまた見落としがちな注意事項や安全への新たな視点を提供してくれると、参加いただいた方には大変好評です。

プログラム一例

2009年度は計486名がご参加。紙芝居を楽しんだり、ぬいぐるみと遊んだり、プレゼントも用意しました。

●見えるところ、見えないところ

乗用車の死角を親子で確認してもらい、運転席から見えない場所が多くあることを知っていただきました。



●横断歩道横断体験

子供たちに一人ずつ渡ってもらい、「右を見て左を見て、さらに運転手の顔を見て確認して渡ると事故に遭わない」など、安全な渡り方をアドバイス。



●トラックの怖さを知ろう

左折時の巻き込み危険を実演。危険性が分かり勉強になったという感想をいただきました。



●チャイルドシートの必要性

保護者を対象に、チャイルドシートがない場合の危険性を体感していただきました。



●大型トラックに乗ってみよう

普段は乗車できない大型トラックの助手席に乗り、高さやスピードを体験しました。



[8エリアで、地域の皆さまと交流を深めました]



三重支店
[9月13日開催/参加者46名]



クレフィール湖東
[9月23日開催/参加者70名]



札幌主管支店 札幌PDセンター
[10月4日開催/参加者56名]



茨城支店
[10月11日開催/参加者52名]



埼玉主管支店 浦和PDセンター
[10月18日開催/参加者26名]



柏支店
[11月1日開催/参加者134名]



延岡支店
[11月7日開催/参加者58名]



岡山支店 水島物流センター
[11月29日開催/参加者44名]

教職員の職場体験の受け入れ

滋賀県教育委員会では、勤続5年目の小学校教職員のインターンシップ体験を推奨しています。クレフィール湖東では教職員の職場体験の受け入れを積極的に行い、2009年度は4名の教職員の方にホテルでの接待やベッドメイキング、レストランでの食事の準備等を体験していただきました。

また、各事業所での地元中・高校生の職場体験受け入れも継続しています。



レストランで接客サービス



ホテルでベッドメイキングを体験

研修後に寄せられた声

CSR
VOICE

- ◎細やかな心遣いは、使う人の立場に立って考えているからこそ気づき実行できるものであると実感。学校現場でも、子供や保護者、職員に対して相手の立場に立った心遣いをしていきたいです。
- ◎プロ意識を持つ大切さを再認識しました。何をすることもそのことを忘れずに常に資質向上に努めたいと思います。
- ◎緊急時の組織としての迅速な対応の仕方を学べ、また交通研修もでき、貴重な体験となりました。

福田社長が関西大学・流通科学大学で講演

関西大学寄付講座

「物流拠点の高度化と情報化」

物流業の社会的地位向上を目指し、(社)日本物流団体連合会が主催する寄付講座を、関西大学は2004年から開催。関西大学は福田社長の母校でもあり、毎年登壇しています。2009年度は、約160名の学生が集まる中、「物流拠点の高度化と情報化」をテーマに講演。合わせて映像で当社の流通ロジスティクス事業やBPSについて具体例を紹介しました。学生たちは熱心に聴き入り、物流や当社への関心を高めていただく機会となりました。(6月10日開催)



他校からの聴講生も参加、真剣に講義に耳を傾ける学生たち



母校の学生たちに、親しみをこめて語りかける福田社長

流通科学大学

「企業論特別講義」

実業界や官公庁のトップが業界の現状や展望、経営戦略などを語る「企業論特別講義」で福田社長が講演。「凜として、東西万里を往く」と題し、経営観と信条について説明する中で、経営には誠実さを旨とする「凜」の姿勢が大切であり、様々なステークホルダーとの信頼関係の醸成こそが事業基盤であることを語りました。また「東西万里を往く」の精神で、今後海外での事業展開や事業の幅の拡大などを図っていく考えを明らかにしました。(10月7日開催)

第4回「囲碁フェスティバル」を開催

囲碁の普及を通じて地域の文化活動促進を図る「囲碁フェスティバル2009」をクレフィール湖東で実施しました。2006年にクレフィール湖東が開設10周年を迎えたことを記念し、企画されたこのフェスティバルは今回で4回目の開催となります。

ゲストにお招きしたのは、2009年の女流棋聖戦で3連覇を達成された梅沢由香里五段と、「NHK杯囲碁トーナメント」の聞き手を務められていた万波佳奈四段の2人の女流囲碁棋士。プロ棋士と対局する「指導碁」をはじめ、「囲碁クリニック」や「囲碁トーナメント」など盛りだくさんの内容で、対局には小学生から84歳のお年寄りまで72名が参加。見学者も含め約120名の囲碁ファンが来場しました。地域貢献活動の一環として、2010年度も9月13日開催予定です。



対局風景

センコー株式会社

お問い合わせ先

センコー株式会社 CSR 推進グループ

〒531-6113

大阪市北区大淀中1-1-30-1300 梅田スカイビル タワーウエスト13F

TEL.06-6440-5190 FAX.06-6440-5198

URL <http://www.senko.co.jp>

ECO-PULP



エコパルプ



この報告書は、環境への配慮のため、用紙には無塩素漂白のエコパルプを、また印刷には大豆油インキを使用しております。

2010年6月発行